トンボ目カワトンボ科

アオハダトンボ

Calopteryx japonica Selys, 1869

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

【選定理由】

水生植物が豊かな河川中流域に生息しており、河川改修等による環境変化に弱い。

【概要】

全長55－63㎜。ハグロトンボによく似るが、成熟したオスでは翅が青藍色に輝き、また腹面末端が白色である。メスでは翅に白色の偽縁紋がある。羽化時期はハグロトンボより約１カ月早く５月中旬ごろから始まる。最盛期は６月で８月上旬まで見られる。本種はメスへの求愛行動が特異で、オスは飛びながら腹面末端の白色部を誇示し、ときに流水面に浮かんで流されるような行動をとる。産卵はメス単独で水中植物に行うが、しばしば潜水産卵に移行する。朝鮮半島から中国東北部、東シベリアに分布し、国内では本州および九州の各地に分布する。

【県内での生息地域・生息環境】

流域の比較的大きな河川の中流域を中心に広く分布するが、生息河川はかなり限定される。隠岐諸島では未記録。

【存続を脅かす原因】

生息地流域の開発等による水質悪化や、河川改修等による河川植生環境の消失。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○	○	○										○						○							

トンボ目イトトンボ科

ムスジイトトンボ

Paracercion melanotum（Selys, 1876）

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での記録が非常に少なく、現在確実に見られるのは中海沿岸部の池沼や河川下流域。

【概要】

全長30－39㎜の中型のイトトンボ。同属のセスジイトトンボやオオイトトンボとは混生するうえ形態が酷似するため、同定に注意を要するグループの一つ。オスでは同属他種に比べ眼後紋が小さく体色の青みが強いが、確実な同定には尾部付属器による確認が必要。メスでは前胸後縁の中央部がへこむことなどで識別できる。国内では宮城県以南に分布。南方系の種で日本海側では産地が限定される。

【県内での生息地域・生息環境】

隠岐（島後）を含む県内沿岸部の数カ所から記録されている。平地の植生豊かで比較的大きな池沼、河川の河口域等がおもな生息環境。中海に面している鳥取県米子市の水鳥公園周辺は本種の多産地であるが、距離的に近い飯梨川河口周辺で近年生息が確認されている。

【存続を脅かす原因】

開発等による生息水域の消失や水質悪化。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○		○	○																○					○	

トンボ目イトトンボ科

ホソミイトトンボ

Aciagrion migratum（Selys, 1876）

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での分布が局限され、また単発的な記録が多く、確実な生息地が知られていない。

【概要】

著しく細身の中型のイトトンボ。本種は秋に羽化し、越冬後翌春に成熟する越冬型と、初夏に羽化し直ちに成熟する夏型の２タイプが知られる。全長は越冬型で33－37㎜、夏型で29－33㎜。未熟な個体は、オス、メスとも淡褐色であるが、成熟すると越冬型の方が、体色の青みがより強く鮮やかになる。産卵はオス、メス連結して植物組織内に行うのがよく観察される。台湾、朝鮮半島から中国中部にかけて分布し、国内では関東・北陸地方以南に分布している。本種は南方系の種であり、比較的寒冷な気候の日本海側では分布が限られる。

【県内での生息地域・生息環境】

平地から山間部まで広く分布するが産地は局地的。植生豊かで日当たりのよい池沼や水田等に生息。隠岐諸島では未記録。

【存続を脅かす原因】

圃場整備や池沼の埋め立てによる生息地の消失。水田への農薬散布。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○	○	○									○		○				○		○						

トンボ目ムカシトンボ科

ムカシトンボ

Epiophlebia superstes（Selys, 1889）

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

河床の安定した山間部の渓流に生息するが、分布は局地的である。

【概要】

全長45－56㎜。中生代に栄えた古代トンボの１群で、現生種は日本特産種である本種と、ヒマラヤ山地に生息するヒマラヤムカシトンボの２種のみ知られていたが、最近になって中国北東部から第３の種が報告されている。複眼が離れるなど体形はサナエトンボ科に似るが、翅はアオイトトンボ科に似るという特異な形態をしている。幼虫期間はきわめて長く、６、７年に及ぶと言われている。おもに４月下旬から５月にかけて渓流周辺を敏捷に飛翔する。産卵はメスが単独でフキ、ワサビ、コケ類などの生体組織内に行う。成虫の出現期間が短いため、幼虫採集による分布調査が有効。

【県内での生息地域・生息環境】

中国山地沿いの源流域を中心に、島根半島部や離島である隠岐（島後）にも分布している。

【存続を脅かす原因】

林道やダム建設等、山間開発による渓流への土砂流入や水系の分断。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	渓流	森林	草原	農地	河川	湖沼	渓流	森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○	○	○	○					○						○											

トンボ目ヤンマ科

サラサヤンマ

Sarasaeschna pryeri（Martin, 1909）

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

周辺を樹林で囲まれた湿地や休耕田などに生息するが、産地は局地的である。

【概要】

全長57－68㎜。黒地に黄色から緑色の斑紋を持つ小型のヤンマ。樹林に囲まれた丘陵地の湿地や休耕田に生息する。４月下旬ごろから羽化が始まり、未熟成虫は林間の開けた場所を高く飛びながら摂食飛翔を行う。成熟したオスは木陰のある湿地や休耕田をホバリングを交えながら縄張り飛翔を行い、メスの飛来を待つ。産卵は朽木や湿った土、落ち葉などに行う。北海道、本州、四国、九州に分布するが、産地の減少している地域もある。日本特産種。

【県内での生息地域・生息環境】

平野部から山間部まで広く分布するが、特殊な湿地環境に生息するため産地は局限される。隠岐（島後）にも分布する。

【存続を脅かす原因】

湿地や休耕田の乾燥化、開発による生息場所の消失。成虫の休息場所となる林の消失。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	湿地	森林	草原	農地	河川	湖沼	湿地	森林	草原	農地	河川	湖沼	湿地	林地	草地	砂浜	河口	
○	○	○	○					○						○						○					

トンボ目ヤンマ科

アオヤンマ

Aeschnophlebia longistigma Selys, 1883

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

【選定理由】

生息池沼の埋め立てやヨシ原などの植生破壊により、産地が急速に減っている。

【概要】

全長66－79㎜。全身黄緑が鮮やかで、一見して他のヤンマと区別できる。幼虫の頭部は顕著な逆三角形でネアカヨシヤンマに似るが、腹部に背棘がないことで識別できる。羽化は５月上旬ごろから始まり、成虫は８月中旬ごろまで見られる。成熟したオスは、おもに日中、ヨシ原の間を縫うように縄張り飛翔する。交尾はヨシ原の中や、林縁の小枝などで観察される。メスは単独で挺水植物の茎に産卵する。国外では朝鮮半島と中国中部、北部に分布し、国内では北海道南部から九州熊本まで分布している。

【県内での生息地域・生息環境】

挺水植物が繁茂する池沼やクリークに生息し、かつては平野部で普通に見られた。隠岐諸島では現在も比較的多産する。

【存続を脅かす原因】

挺水植物の多生する溝川や池沼の埋め立て。ヨシ原などの植生破壊。休息場所となる山林への薬剤散布。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○	○	○	○																○						

トンボ目ヤンマ科

カトリヤンマ

Gynacantha japonica Bartenef, 1909

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

圃場整備による水田の乾燥化や山裾の水田の放棄荒廃により、近年減少傾向が著しい。

【概要】

全長66－77㎜。複眼が大きく腹部がほっそりとした中型のヤンマ。腹部背面の第２節の色は、成熟オスでは鮮やかな水色、メスでは緑色の斑紋となる。羽化は７月上旬ごろから始まり、成虫は秋遅く11月下旬ころまで見られる。黄昏活動性が強く、日中は薄暗い樹林の下枝にぶら下がっていることが多い。産卵はメス単独で水田の湿土や朽木などに行う。国外では中国中部、北部から朝鮮半島に分布し、国内では北海道南部から九州まで広く分布する。

【県内での生息地域・生息環境】

かつては平野部から低山地にかけての林縁の水田で普通に見られたが、圃場整備による水田の乾燥化や草原化により近年急速に生息状況が悪化している。隠岐の島後や、島前の知夫里島にも記録がある。

【存続を脅かす原因】

圃場整備等による水田や湿地の乾燥化。成虫の休息場所となる林の伐採。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○	○	○	○								○						○								

トンボ目ヤンマ科

ルリボシヤンマ

Aeshna juncea（Linnnaeus, 1758）

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

おもに中国山地沿いの湿地や比較的小規模な池沼に生息するが、分布が局地的である。

【概要】

全長68－90㎜。オオルリボシヤンマに似た大型のヤンマである。７月中旬ごろから羽化、成虫は10月中旬ごろまで見られる。成熟した成虫は、気温が下がり始める８月下旬ごろから水域に現れ、オスはホバリングをしばしば交えて縄張り飛翔を行い、メスは単独で水面付近の植物組織内や湿土に産卵する。北半球北部一帯に分布し、国内では北海道、本州、四国に分布。西南日本では産地が限られる。

【県内での生息地域・生息環境】

おもに中国山地沿いの湿地や休耕田、小規模で挺水植物の豊富な池沼で見られる。島根半島部や益田市周辺、大田市石見銀山周辺など標高の低い平野部での記録もあるが非常にまれ。隠岐諸島では未記録である。

【存続を脅かす原因】

造成や残土処理等による生息地の埋め立て。成虫の休息場所となる森林の伐採。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	湿地	森林	草原	農地	河川	湖沼	湿地	森林	草原	農地	河川	湖沼	湿地	林地	草地	砂浜	河口	
○	○	○						○						○						○					

トンボ目サナエトンボ科

ヒメサナエ

Sinogomphus flavolimbatus（Matsumura in Oguma, 1926）

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

流域全体の環境が良好に保たれている大きな河川の上流域に限って分布する。

【概要】

全長41－47㎜。河川上流域を中心に生息する華奢な体形のサナエトンボ。体形のよく似たオジロサナエとしばしば混生するが側胸の斑紋等で識別は容易。幼虫は河川中下流域まで流下することが多く、そこで羽化した成虫は上流域に移動しながら成熟するという。匹見川では、６月に羽化が始まり７月中旬には渓流の石の上で縄張りを張るオスが多数見られる。産卵はメスが単独で、流れの緩い岸辺に現れ打水産卵を行う。日本特産種。

【県内での生息地域・生息環境】

比較的流域の大きな河川の上流部で見られる。高津川水系の匹見川上流部では多産するが他の地域では単発的な記録がほとんどで個体数も多くない。隠岐諸島では未記録。

【存続を脅かす原因】

林道工事等山間部開発に伴う木々の伐採や渓流への土砂流入。ダム設置による渓流環境の消失や水系の分断。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○	○	○				○						○													

トンボ目サナエトンボ科

タベサナエ

Trigomphus citimus tabei Asahina, 1949

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

【選定理由】

分布が限られるが、特に県東部ではまれで、絶滅した産地も少なくない。

【概要】

全長43－47㎜の比較的小型のサナエトンボ。県内に分布するコサナエ属３種（本種、コサナエ、オグマサナエ）はお互い酷似し、また混生も見られるため、成虫の同定には注意を要する。ただし本種幼虫は、同属他種に比べ背棘・側棘が明瞭であり、また腹部先端が円筒形にならず、区別は容易である。県内平野部では４月上旬から羽化が始まり６月まで記録がある。コサナエ属中で本種のみが日本特産種でなく、朝鮮半島から中国東北部にかけて別亜種が分布する。

【県内での生息地域・生息環境】

隠岐諸島を除く県全域に分布するが、東部では産地が局限される。平野部を中心に、緩やかな流れの浅い小川に生息するが、溜池等止水的環境にも適応している。

【存続を脅かす原因】

小規模な流れのコンクリート水路化。生息地の植生環境の破壊。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼	小川	森林	草原	農地	河川	湖沼	小川	林地	草地	砂浜	河口	
○	○	○											○	○					○	○					

トンボ目サナエトンボ科

キイロサナエ

Asiagomphus pryeri（Selys, 1883）

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

【選定理由】

平地や丘陵地の緩やかな流れの砂泥河川に生息するため、分布が限られる。

【概要】

全長60－69㎜の大型のトンボ。ヤマサナエに似るが、オスでは尾部上付属器の先端が斜めに断ち切れ下部付属器よりも短いこと、メスでは産卵弁が長く突出することで識別は容易。羽化は５月中旬ごろから行われ、１週間前後で終わる。未熟個体は生息地周辺の林内で過した後、水域に戻ってくる。オスは河川の石や植物に静止し縄張りを占有する。日本特産種で関東以南の本州、四国、九州に分布するが、全国的に産地の減少が顕著。

【県内での生息地域・生息環境】

県内では東部を中心に記録があるが、中・西部では記録が少ない。隠岐諸島では未記録。おもな生息環境は砂泥河川の中下流域である。

【存続を脅かす原因】

河川改修等による河川環境の変化。未熟期間を過ごす河川周辺の林の消失。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼	小川	森林	草原	農地	河川	湖沼	小川	林地	草地	砂浜	河口	
○	○	○												○						○					

トンボ目ムカシヤンマ科

ムカシヤンマ

Tanypteryx pryeri（Selys, 1889）

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

幼虫が山の斜面で水のしたたり落ちるような特殊な環境に生息するため分布が限られる。

【概要】

全長63－80㎜のやや大型のトンボ。頭部が比較的小さく複眼が離れており、一見サナエトンボのように見えるが、腹部の斑紋が特異で縁紋もサナエトンボより長い。羽化は５月上旬ごろに始まり、成虫は７月下旬まで見られる。大型のトンボのわりに動作がのろく、飛翔しているより、木立の幹や地面および低木の葉上などに体を密着させて止まることが多い。産卵はメス単独で湿った柔らかい泥やコケの間に行う。幼虫は湿った土やコケの間にトンネルを掘って生活している。日本特産種で本州、九州に分布しているが、四国には分布しない。

【県内での生息地域・生息環境】

低山地から山間部にかけて広く分布するが、産地は限定される。島根半島部にも記録があるが、隠岐諸島では未記録。

【存続を脅かす原因】

林道建設等開発による生息湿地の消失。成虫の休息場所となる山林の伐採。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	湿地	森林	草原	農地	河川	湖沼	湿地	森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○	○	○						○						○											

トンボ目エゾトンボ科

エゾトンボ

Somatochlora viridiaenea（Uhler, 1858）

島根県：準絶滅危惧（NT）

写真 口絵20

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

かつては休耕田等の増加に伴い、一時的に産地・個体数を増したが、植生遷移による生息地の乾燥化などにより多くの産地が消失した。

【概要】

全長53－74㎜。全体が金属光沢のある暗緑色をした中型のトンボで夏から秋に出現する。成熟したオスは水田や湿地上で縄張り飛翔を行いメスの飛来を待つ。黄昏時には生息地周辺の高所を広範囲に飛び回る。同属のハネビロエゾトンボとは混生するうえ、特にオスの形態が酷似するため、同定には注意を要する。雌雄とも腹部に黄斑があるのが本種であるが、成熟した雄では黄斑の消失する個体も見られ、尾部上付属器による確認が必要である。

【県内での生息地域・生息環境】

隠岐諸島を含め、県内全域の丘陵地から山地にかけての湿地的環境に分布するが、生息地は限定される。

【存続を脅かす原因】

植生遷移等による湿地の乾燥化や草原化、造成・残土処分等による湿地の消失。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	湿地	森林	草原	農地	河川	湖沼	湿地	森林	草原	農地	河川	湖沼	湿地	林地	草地	砂浜	河口	
○	○	○	○					○			○			○			○			○					

トンボ目トンボ科

ヒメアカネ

Sympetrum parvulum（Bartenef, 1912）

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

湿地や水はけの悪い水田等に生息し、生息地が限定される。近年産地の減少が著しい。

【概要】

全長28－38㎜。県内で見られるアカトンボ属の中では最小の種類。マユタテアカネに似るが、顔面の眉斑が無いかあっても薄く小さいことなどで区別できる。羽化は５月下旬ごろから始まり、成虫は平野部では11月ごろまで見られる。メスは交尾後、オスと連結あるいは単独で、腹部を泥の中に差し込むように産卵するのが観察される。朝鮮半島から中国東北部、ウスリーまで分布し、国内では北海道から九州まで分布。

【県内での生息地域・生息環境】

隠岐諸島を含め県全域に広く分布するが、生息地は限定される。湿地的環境に生息し、産地ではモートンイトトンボやハッチョウトンボとの混生がしばしば観察される。

【存続を脅かす原因】

造成や残土処分等開発による、湿地・休耕田等生息地の消失やそのような環境の乾燥化、草原化。成虫の休息場所となる周辺雑木林等の伐採。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼	湿地	森林	草原	農地	河川	湖沼	湿地	林地	草地	砂浜	河口	
○	○	○	○								○			○			○			○					

トンボ目トンボ科

ミヤマアカネ

Sympetrum pedemontanum elatum（Selys, 1872）

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

低山地を中心にかつては比較的普通に見られたが、近年生息地の減少傾向が顕著である。

【概要】

全長30－41㎜のやや小型のアカトンボ。翅の縁紋あたりから内側にかけて幅広い褐色帯があるのが特徴的である。羽化は６月下旬ごろから始まり、成虫は11月下旬近くまで見られる。ただ秋に羽化する個体もいるようで、一部２化の可能性があるという。オスは成熟すると縁紋も含めて全身が赤くなる。メスは成熟してもあまり赤くならず橙褐色だが、縁紋や腹部が少し赤くなるものもいる。９月上旬ごろから交尾や産卵の生殖活動が見られる。国内では北海道から九州まで、国外では朝鮮半島、中国、ロシア、ヨーロッパに分布。

【県内での生息地域・生息環境】

隠岐諸島および島根半島部を除き、低山地を中心に広く分布する。水田やそれに付随する緩やかな流れがおもな生息環境である。最近平野部に近い生息地の減少が著しい。

【存続を脅かす原因】

圃場整備による水田の乾燥化や水田地帯を緩やかに流れる小川のコンクリート化。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼	小川	森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○	○	○									○			○											

カマキリ目カマキリ科

ウスバカマキリ

Mantis religiosa（Linnaeus, 1758）

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：情報不足（DD）

【選定理由】

県内ではまれな種であり、生息地が限られている。

【概要】

体長約45－65㎜。成虫・幼虫共に前脚基節の内側に黒紋がある。卵のうはやや長い枕形で壁・石下などに産みつけられる。造成地などの草地や河川敷・海岸の草原など開けた明るい環境を好み、安定した草原に生息する。国内では北海道、本州、四国、九州、南西諸島、国外では朝鮮半島、台湾、中国、シベリア、インド、中～南ヨーロッパ、北アフリカ、北米に分布する。

【県内での生息地域・生息環境】

本土域および隠岐諸島で記録されている。隠岐諸島の記録は再確認が必要である。沿岸部の記録が多い。

【存続を脅かす原因】

安定した草原の減少。河川改修。海岸の開発。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○			△													○	○					○			

バッタ目コオロギ科

ハマスズ

Dianemobius csikii（Bolivar, 1901）

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

自然度の高い砂地環境に生息する種であり、県内での生息地も減少している。

【概要】

体長約10－20㎜。灰白色の地に褐色（あるいは灰色）の斑があり、砂とそっくりの体色をしている。２化性で、成虫期は６～10月。時々「チョンチョン」という音をまじえながら「ビービー」と鳴く。海岸植物が多い良好な自然の砂浜や河川敷に生息する。国内では北海道南部、本州、四国、九州、奄美諸島、国外では中国北部に分布する。

【県内での生息地域・生息環境】

県東部から西部の海浜植物群落を伴った砂浜で記録されている。内陸での記録はまったく無く、確認は難しい。隠岐諸島には生息していないとみられる。

【存続を脅かす原因】

海浜植物群落を伴った砂浜の減少。海岸浸食。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○	○	○																					○	○	

バッタ目バッタ科

ショウリョウバッタモドキ

Gonista bicolor（de Haan, 1842）

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

ススキやチガヤ草地の減少により、生息地が孤立している。

【概要】

体長約30－80㎜。細長く直線的な体型。後脚は短い。体は淡緑色で、背中は茶色っぽい。全身が褐色の個体もいる。飛ぶ時も発音しない。どちらかというと湿っぽい安定した草原を好む。国内では本州、四国、九州、伊豆諸島、対馬、南西諸島、国外では中国、東南アジアに分布する。

【県内での生息地域・生息環境】

島根半島、松江市、雲南市、三瓶山および隠岐諸島から記録されている。隠岐では1950年の目録以降、記録が無かったが、2013年10月に島前の中ノ島で再確認された。

【存続を脅かす原因】

水田の畦の管理方法の変化。採草地の放棄による植生遷移。特にススキ草地の減少。ススキの群落であってもクズが進入すると本種は生息できなくなる。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○	○		○							○	○														

バッタ目イナゴ科

セグロイナゴ

Shirakiacris shirakii（Bolivar, 1914）

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生息地は限定されている。

【概要】

体長約30－40㎜。中型のイナゴ類。体色は黒灰色から茶灰色で、黒褐色の斑紋がある。複眼には６条の黒線がある。河川敷、丘陵地の疎らな湿った草原に生息する。国内では本州、四国、九州、対馬、南西諸島、国外では朝鮮半島、沿海州南部、中国、カシミール、バルチスタンに分布する。

【県内での生息地域・生息環境】

県東部から西部、隠岐諸島で記録されている。近年の記録があるのは隠岐のみである。

【存続を脅かす原因】

採草地の放棄による植生遷移。草地を一斉に刈り取る事による単純化、放置によるマント群落化、セイタカアワダチソウなどの外来植物の繁茂。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○	○	○	○							○						○									

バッタ目バッタ科

ヤマトマダラバッタ

Epacromius japonicus（Shiraki,1910）

島根県：準絶滅危惧（NT）

写真 口絵20

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

海浜植生を伴った砂丘海岸に生息する種であり、県内での生息地も自然度の高い砂浜に限定されている。

【概要】

体長30－35㎜。体色は白地に黒や茶色の斑模様の個体が多いが、緑色に赤褐色の斑模様を持つ個体もいる。基本的には生息地の砂地の色によく似ており、動かないと見つけることは難しい。日本固有種で北海道、本州、四国、九州に分布する。

【県内での生息地域・生息環境】

県内では東部から西部までの砂丘の発達する海岸や河口の砂洲に生息している。県内の砂浜海岸は、大社から湖陵付近の出雲砂丘が最大で、本種の最大の生息地でもある。隠岐諸島では記録がなく、生息の可能性も低い。全国的にみれば島根県は自然度の高い砂浜が多く残されており、良好な生息地としての価値は高い。

【存続を脅かす原因】

砂浜海岸の開発、海岸浸食。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○	○	○																					○		

ガロアムシ目ガロアムシ科

ガロアムシ類

Galloisina spp.

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

原始的な形態を残す昆虫とされ、県内では東部および西部の山地　５カ所で採集記録があるが、詳細は不明である。

【概要】

ガロアムシは体長10㎜前後。全体に飴色がかった褐色で、生時は淡色のものが多いといわれる。

国内では、エゾガロアムシ、オオガロアムシ、ガロアムシ、ヒメガロアムシなどの種が知られ、北海道から九州までの山地で点々と発見されており、本州にはガロアムシのほかオオガロアムシ、ヒメガロアムシが分布するとされる。近年、新たな知見に基づく再検討が行われている。

【県内での生息地域・生息環境】

1979年に県東部の大万木山でガロアムシの成虫が採集され、その後、立久恵などの樹林の湿った石の下で成虫と幼虫が採集されている。1984年に匹見の広見山で採集された幼虫は、オオガロアムシの可能性もあるとされる。

【存続を脅かす原因】

現時点では生息地域、生態などが明らかでなく不明。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
△		△		△																					

カメムシ目ハネナガウンカ科

マエグロハネナガウンカ

Zoraida pterophoroides（Westwood, 1851）

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

照葉樹を交えた自然林に生息する。県内での記録地は１カ所のみで個体数も少ない。

【概要】

体長６㎜、翅端まで17㎜の前翅の長い大型のウンカである。形態はアヤヘリハネナガウンカとよく似ているが、本種の前翅の前縁部暗褐色帯は後縁部が直線状であることで区別できる。本州、九州の山地で得られるが、個体数は少ない。国外では、台湾、ミャンマー、スリランカに分布する。アヤヘリハネナガウンカと同様生態等は未知の部分が多い。

【県内での生息地域・生息環境】

出雲部の丘陵地で１個体が得られているが、その後の記録はない。他地域でもアカガシなどの照葉樹をまじえた自然林に生息する可能性がある。

【存続を脅かす原因】

照葉樹林周辺の植生破壊･分断、市街化、殺虫剤散布、大気汚染など。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○									○																

カメムシ目ハネナガウンカ科

シリアカハネナガウンカ

Zoraida horishana Matsumura, 1914

島根県：準絶滅危惧（NT）

写真 口絵20

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

照葉樹を交えた丘陵地の里山に生息する大型のウンカで、個体数が少なく全国的に希種とされる。

【概要】

体長は６㎜（翅端まで14㎜）で、前翅が非常に長く黒褐色。頭部と触覚は黄色で、腹端は鮮紅色。小楯板は大きく褐色を帯びる。幼虫はウメの朽木に生えるキノコで育つことが知られている。本州・四国・九州、台湾に分布する。

【県内での生息地域・生息環境】

隠岐の島町中谷で近年確認された。上記の分布域から、県本土のあまり冷涼でない地域の里山で発見される可能性はある。

【存続を脅かす原因】

丘陵地の里山の破壊や伐採。これらの地域の長期間の放置による竹林化。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
			○	○																					

カメムシ目ハネナガウンカ科

アヤヘリハネナガウンカ

Losbanosia hibarensis（Matsumura, 1935）

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

低山地のスダジイやアカガシを交えた広葉樹林に生息する大型のウンカで、日本特産種。県内では数カ所で記録されている。

【概要】

体長５㎜､翅端まで13㎜の大型で美しいウンカである。体は黄赤色で前翅は長く、その外縁は直線状で基半から前縁部にかけては幅広く暗赤褐色で、その後縁はジグザク状。本州･四国･九州の山地で得られるがまれである。生態などは未知の部分が多い。幼虫は照葉樹につく菌類を食するといわれている。

【県内での生息地域・生息環境】

出雲市・雲南市・大田市の丘陵地の照葉樹をまじえた山林で得られているが、他地域では生息記録がない。

【存続を脅かす原因】

照葉樹林周辺の植生破壊･分断、市街化、殺虫剤散布、大気汚染など。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○	○								○																

カメムシ目セミ科

エゾゼミ

Lyristes japonicus（Kato, 1925）

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

大型の寒地性のセミであり、森林の自然度の指標となる。近年県内では記録のあった平野部で見られなくなった。

【概要】

体長は37－43㎜でオスがやや大きく、翅端までは雄雌とも58－65㎜である。アカエゾゼミとよく似るが、全体に黒味が強く前胸背の上方に白線があり、側縁が白粉におおわれている。鳴き声もよく似ているが、数分間も連続的に鳴くことがある。日本全土および朝鮮半島に分布し、ヒノキなどが生える針葉樹林に多い。

【県内での生息地域・生息環境】

アカエゾゼミより標高の低いスギ、ヒノキなどの植林地にも生息する。県内では低山地から標高900mくらいが上限である。アカエゾゼミより分布域は広く、個体数も多いが、オスは高い梢上にいるので見つけにくい。隠岐（島後）にも生息する。出雲市大津町と湖陵町の記録は近年途絶えている。

【存続を脅かす原因】

低山地からブナ帯下部にかけての森林破壊や殺虫剤散布。スギ、ヒノキ人工林の放置。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○	○	○	○	○																					

カメムシ目セミ科

アカエゾゼミ

Lyristes flammatus（Distant, 1892）

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

国内のブナ帯に生息する大型の美しいセミで、県内では標高800m以上のブナ帯に生息する。本県西部山地が本州における西限分布域となる。

【概要】

体長は37－43㎜でオスがやや大きく、翅端までは58－65㎜である。エゾゼミとよく似るが、全体に赤味が強く前胸背の上方に白線がなく、側縁も白粉におおわれていない。また前翅の暗色斑の様子によって区別できる。北海道・本州・四国・九州、国外では朝鮮半島・中国に分布する。北海道や東北地方では平地にすむが、関東以西では600－1,200mのブナ・ミズナラ帯に生息し、産地は局所的である。7月下旬から9月上旬にかけてあらわれ、日当たりのいい梢で、「ギィー……」と太く短く鳴く。

【県内での生息地域・生息環境】

三瓶山および中国山地の山頂付近数カ所で確認されているが、ブナ帯下部の標高がやや低い場所での採集記録もある。

【存続を脅かす原因】

ブナ、ミズナラを含む広葉樹林の伐採や分断。温暖化によるブナ林の衰退。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○	○	○		○																					

カメムシ目セミ科

ハルゼミ

Terpnosia vacua（Olivier, 1790）

島根県：準絶滅危惧（NT）

写真 口絵20

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

アカマツやクロマツ林に生息するセミであるが、県内の平地では近年大規模なマツ枯れによって生息場所が失われつつある。

【概要】

体長はオスが26－31㎜（翅端まで33－37㎜）、メスが22－26㎜（翅端まで31－36㎜）である。体は黒色で細かな灰色の鱗毛を装う。オスの腹部は袋状で、メスの腹部は短く先端は細長い産卵管となる。北海道・本州・四国・九州に分布する。成虫は4月下旬から6月末に出現する。分布域は関東以西の本州・四国・九州・神津島・天草諸島・五島列島・甑島、中国。

【県内での生息地域・生息環境】

全域のマツ林に生息するが、隠岐諸島には生息しない。山間部では発生が遅く個体数も少ない。近年平地では鳴き声が殆ど聞かれなくなった。

【存続を脅かす原因】

「マツ枯れ」によるニ葉生マツ林の衰退、「マツ枯れ予防」の殺虫剤散布。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○	○	○							○																

カメムシ目セミ科

エゾハルゼミ

Terpnosia nigricosta（Motschulsky, 1866）

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内では標高800m以上のブナ帯に生息し、本県西部山地が本州における西限分布域となる。

【概要】

体長はオスが30－35㎜（翅端まで40－44㎜）、メスが22－27㎜（翅端まで38－42㎜）である。北海道・本州・四国・九州に分布する。東北日本では低山地に、西南日本ではブナ帯に生息する。６月中旬から７月下旬に出現し、「ミョーキン・ミョーキン・ケケケケ……」と鳴く。合唱性があり、１匹が鳴くと他の個体も鳴きだす。同属のハルゼミは、平地から低山地のマツを主体とする森林に広く分布し、体色は黒っぽい。

【県内での生息地域・生息環境】

中国山地および三瓶山の、標高800－1,000mのブナ林に生息する。隠岐諸島では未記録。

【存続を脅かす原因】

ブナ林の伐採、分断。温暖化によるブナ林の衰退。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○	○	○		○																					

カメムシ目セミ科

ヒメハルゼミ

Euterpnosia chibensis chibensis Matsumura, 1917

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

一定規模以上の照葉樹林に生息する小型のセミであり、県内にわずかに残存する極相的自然の指標となる昆虫である。

【概要】

体長は23－29㎜であるがオスがやや大きく、翅端まで32－37㎜である。メスの産卵管はきわめて長く後方にのびる。国内では本州・四国・九州・沖縄本島・屋久島・トカラ列島・奄美大島、国外では朝鮮半島に分布する。６月中旬から７月下旬に出現し、シイやカシなどの常緑樹上で「ウィーン・ウィーン」と鳴く。合唱性があり、森全体がうなっているようにきこえる。

【県内での生息地域・生息環境】

極相に近い照葉樹林に生息するが、二次林的な要素をもつ地域にも見られる。出雲部では、海岸部から山間地まで生息場所が点在している。石見地方では、山間部でも確認されている。隠岐諸島には生息しない。

【存続を脅かす原因】

スダジイ林、カシ林などの破壊、分断。アカマツをまじえた林分の周辺における「松枯れ対策」殺虫剤散布等。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○	○	○							○																

カメムシ目キジラミ科

エノキカイガラキジラミ

Celtisaspis japonica（Miyatake, 1968）

島根県：準絶滅危惧（NT）　写真 口絵20

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

【選定理由】

おもにエノキの大木がまとまって生える場所に生息する種である。古くからエノキが自生・植栽されている場所が減少しており、本種の生息地も限定されている。

【概要】

体長約3.6㎜。体および前翅の大部分は黒色。秋型の成虫の前翅には透明な帯がある。触角の先端以外は全体に黄褐色。胸部の幅が広く、頭部は相対的に小さい。前翅の表面には細かく不規則なシワが多く、鈍い光沢がある。初夏に出現する幼虫はエノキの葉表にツノ状のゴールを形成し、葉裏には貝殻状の覆いがある。秋に出現する幼虫はゴールを作らず、葉裏に貝殻状の覆いがあるのみである。日本固有種で、本州と九州に分布する。

【県内での生息地域・生息環境】

県内では東部や中部で記録がある。

【存続を脅かす原因】

エノキの大木の減少。低地におけるエノキノミゾウムシの増加も本種の生息に影響を与えている可能性がある。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○	○								○																

カメムシ目タイコウチ科

ヒメミズカマキリ

Ranatra unicolor Scott, 1874

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

全国的に平野部の溜池などの汚染・破壊によって、生息地が失われつつある。県内でも最近の確かな生息記録は少ない。

【概要】

成虫の体長は24－32㎜の細長い水生カメムシである。体は黄褐色で体長の３分の２程度の呼吸管を持つ。産卵期は６月下旬から７月。卵はヒシやジュンサイなどの浮葉植物の組織内に産み付けられる。８月ごろに成虫が現れ、メダカなどの小動物を捕らえてその体液を吸収する。水中では水草上で静止していることが多い。分布域は北海道・本州・四国・九州・沖縄、国外では朝鮮半島・中国北部・東シベリア。同属のミズカマキリは、一回り大きく、体長と同じ長さの呼吸管を持つ。

【県内での生息地域・生息環境】

平野部や丘陵地の小規模な溜池など約10カ所で確認されている。

【存続を脅かす原因】

溜池などの埋め立てや破壊。各種排水の流入。ブルーギルやブラックバスなど外来魚の放流。長期間の水抜きなど。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○	○	○											○						○						

カメムシ目ミズムシ科

ホッケミズムシ

Hesperocorixa distanti hokkensis（Matsumura, 1905）

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

【選定理由】

生息場所の止水域が開発や都市化によって失われ、全国的に絶滅に瀕している。本県でも近年生息が確認された場所は数カ所で、個体数も少ない。

【概要】

体長10㎜前後の水生カメムシのなかまである。体は淡青黄色で黒色の条斑がある。前胸背の黒色黄帯は９～12本。後肢をのばしてボートのオールのように動かし、水中を泳ぐ。このために、後肢ふ節には長毛が密集している。水中の小動物を捕らえて体液を吸収する。成虫で越冬し、３月ごろ産卵し、新成虫は６月ごろ出現する。北海道・本州・九州、国外では朝鮮半島・中国に分布する。西日本に生息するのは本亜種とされる。

【県内での生息地域・生息環境】

県東部の丘陵地の溜池数カ所で生息が確認されている。これらはヒシやジュンサイが繁茂したやや富栄養化した水域である。池の周囲は里山的な環境が維持されている。

【存続を脅かす原因】

溜池など埋め立て、各種排水の流入。ブルーギルなど外来魚の放流。長期間の水抜きなど。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○		○											○												

カメムシ目ミズムシ科

オオミズムシ

Hesperocorixa kolthoffi（Lundblad, 1933）

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

【選定理由】

本州西部、四国および九州に分布するが、池沼環境悪化により激減している。県内では、近年生息が確認されている。他地域でも生息環境があると考えられる。

【概要】

同属のホッケミズムシよりやや大きく、体長10.8－13.4㎜でやや丸みがあり、雄の顔の中央部は広く凹む。生態もホッケミズムシとよく似ており、池沼に生息する小動物を捕食する。ときに群生するが、産地は局地的。国内では本州（近畿地方以西）、四国、九州、国外では朝鮮半島、中国、ロシアに分布する。

【県内での生息地域・生息環境】

県東部の数カ所と隠岐（島前）で記録がある。比較的開けた環境の止水域に生息する。他県では学校のプールで発生したという報告もある。

【存続を脅かす原因】

溜池や水路などのコンクリート化や各種排水の流入。ブルーギルなどの外来魚の放流。長期間の水抜きなど。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○			○																○						

カメムシ目ミズカメムシ科

ウミミズカメムシ

Speovelia maritima Esaki, 1929

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

自然度の高い海岸に生息するミズカメムシである。生息に適した環境が限られている上に、本種が好む微環境は港湾等の整備によって消失している。

【概要】

体長４㎜内外、褐色で頭は大きく前下方に突出する。体は硬く頑丈。口吻は長く後脚基節に達する。無翅で、長翅型は確認されていない。海蝕洞や岩礁地帯の石下で発見される。幼虫は初夏から夏にみられる。分布域は北海道・本州・伊豆諸島・九州。遠く離れたハワイ諸島に近縁種がいる。

【県内での生息地域・生息環境】

1957年頃浜田市の河口付近で得られ、その後しばらく確認されていなかった。2000年以降に島根半島や隠岐諸島で再発見された。隠岐島前の中ノ島では、湾内が良好な生息地となっており、個体数が多い。

【存続を脅かす原因】

岩礁地帯の破壊、コンクリート化、水質汚濁などの環境の悪化。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	岩礁
○	○		○																						○

カメムシ目カタビロアメンボ科

オヨギカタビロアメンボ

Xiphovelia japonica Esaki et Miyamoto, 1959

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

【選定理由】

生息地が局地的であり、全国的に減少傾向にあるため。

【概要】

体長1.5－2.5㎜。体は光沢のない黒色で、中胸背や腹部背面に銀灰色毛による紋様が見られる。ふつう無翅型だが、まれに長翅型が出現する。生息地では密集して生息する。

【県内での生息地域・生息環境】

浜田市のみで確認されている。河川の護岸ブロックの間や溜池の岸部に生息する。

【存続を脅かす原因】

生息環境の悪化と消失。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
		○																○	○						

カメムシ目アメンボ科

エサキアメンボ

Limnophorus esakii（Miyamoto, 1958）

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

【選定理由】

アジア東部に分布するアメンボ。国内では関東地方から九州北部に生息するが、産地は限られる。

【概要】

体長10㎜前後、中型の繊細なアメンボである。体は褐色で体側は銀白色、頭部は黒色で褐色の条斑がある。触角は長く、第４節が最長。国内では本州・九州、国外では朝鮮半島・中国に分布する。池沼や流水域のヨシやマコモなどの抽水植物の間で活動するため見つかりにくい。水辺で産卵、越冬することや季節的分散飛行をしないことなどにより「新しい生息場所を開拓する能力に乏しい」とされてきたが、最近の調査・研究によると必ずしもそうではない。

【県内での生息地域・生息環境】

県東部平野部の溜池や水路河口部などで確認されている。隠岐諸島にも生息する。

【存続を脅かす原因】

池沼や流水域のヨシ帯の破壊。これらの水域への各種排水の流入水質汚濁。ブルーギルやブラックバスなど外来魚の放流。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○			○															○	○						

カメムシ目カスミカメムシ科

アカスジオオカスミカメムシ

Gigantomiris jupiter Miyamoto et Yasunaga, 1988

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

1988年に日本から新属・新種として記載された国内最大のカスミカメムシである。国内では、限られた地域のみに生息する。山陰では大山と扇ノ山が基準標本産地となっている。

【概要】

体長13－15㎜で、この科のカメムシの中では世界最大クラスである。体色は黒褐色から黄色縞、赤色縞のものなど変異に富んでいる。寄主植物はオニグルミ、ヤナギ類、ミズメ、ミズナラ、スイカズラなど。分布域は、国内では本州・四国・九州、国外では朝鮮半島・ロシア沿海州である。長野以西の本州では中国山地が主要な生息地である。

【県内での生息地域・生息環境】

三瓶の太平山で1991年に発見、その後三瓶北の原や隠岐の島町でも採集された。生息域は、山地帯の広葉樹林の林縁部である。

【存続を脅かす原因】

ブナ帯下部の落葉広葉樹林の伐採など。極相的な環境は必要としないと思われる。林縁部の二次林的環境を保つためには、適度の人為的管理が必要である。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
	○		○	○																					

カメムシ目サシガメ科

アダチアカサシガメ

Haematoloecha adachii Tachikawa,1968

島根県：準絶滅危惧（NT）

写真 口絵20

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

暖地に棲む地表性のサシガメであるが、同属の他種に比べてきわめてまれな種である。本県では隠岐（島後）で最近確認されている。

【概要】

体長10－13㎜で前胸背板前葉が黒色となること、前翅革質部が広く赤色を呈することなどで、同属の他種から区別できる。今のところ本州（千葉県）・四国（高知県）・伊豆諸島（神津島、御蔵島）で記録されているに過ぎない。

【県内での生息地域・生息環境】

隠岐島後（隠岐の島町）で冬季、海岸沿いの林床の腐朽木材中で越冬している１個体が発見された。冬季でも温暖な県西部の海岸林などでの生息が考えられる。

【存続を脅かす原因】

海岸林の破壊や汚染。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
			○																		○				

カメムシ目ナガカメムシ科

ハマベナガカメムシ

Peritrechus femoralis（Kerzhner, 1977）

島根県：準絶滅危惧（NT）

写真 口絵21

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

【選定理由】

河口や海浜の草本間に生息するが、個体数が少なく確認地は全国的に限られる。県内では近年東部３カ所で確認されている。

【概要】

体長4.3－5.5㎜、体は黄褐色で黒色点刻を散布するが目立った斑紋はない。草本群落が見られる開けた河原や河口や海浜で得られる。分布は北海道・本州・九州・四国、ロシア極東部・中国北東部。

【県内での生息地域・生息環境】

三刀屋町、木次町の斐伊川河川敷、安来市赤江町の吉田川河口で得られている。他地域でも開けた砂地の草本群落において発見される可能性は高い。

【存続を脅かす原因】

自然度の高い河原・河口や海浜などの汚染や破壊、近傍での殺虫剤散布。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○																○						○			

カメムシ目クヌギカメムシ科

ヨツモンカメムシ

Urochela quadrinotata（Reuter, 1881）

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

寒地系のカメムシで、県東部山地が本州における分布西限であり、個体数も少ない。

【概要】

体長15㎜内外、赤みを帯びた褐色で各半翅鞘上に黒紋がある。触角は長い。山地のハシバミやシデ類に見いだされる。新成虫は９月に現れる。国内では北海道･本州･九州、国外では朝鮮半島・東シベリアに分布する。同属にはバラ科木本につくナシカメムシがあるが、近年では少なくなった。

【県内での生息地域・生息環境】

県東部山地帯山麓部の落葉広葉樹林２カ所で記録がある。

【存続を脅かす原因】

山地帯の落葉広葉樹林の伐採、植生の遷移、気候の温暖化。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○									○																

カメムシ目ツチカメムシ科

シロヘリツチカメムシ

Canthophorus niveimarginatus（Scott, 1874）

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

【選定理由】

旧北区東北部を分布の中心とし、日本は分布の南端にあたる。全国的に絶滅に瀕しており、県内でも最近の記録は２カ所のみである。

【概要】

体長６－８㎜、光沢のある黒藍色で粗い点刻におおわれる。体の側縁は黄白色に縁とられる。カナビキソウに寄生し、メス成虫は卵を保護する習性がある。国内では本州・四国・九州、国外では朝鮮半島・中国・シベリア・旧北区東北部に分布する。

【県内での生息地域・生息環境】

最近の記録は三瓶山と益田市にある。環境の良好な山地（温帯）の草原に生息する。

【存続を脅かす原因】

山地草原の環境汚染や破壊、地球温暖化など。草原への低木の侵入などによる遷移の進行。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
	○	○			○																				

カメムシ目ツチカメムシ科

ハマベツチカメムシ

Bysinus variansi（Fabricius, 1803）

島根県：準絶滅危惧（NT）　写真 口絵21

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

自然度が高く規模の大きい海浜砂丘に生息地が限定される。山陰海岸では数カ所が確認されているのみである。

【概要】

体長3.5－4.5㎜、体は暗褐色から濃く褐色、触覚と各脚は黄褐色。海浜の草本植物の根際で得られる。植物からも吸汁することがある。国内では本州（山口・鳥取・和歌山・三重･新潟など）・九州（長崎・福岡）、国外では朝鮮半島・中国・東洋区。

【県内での生息地域・生息環境】

出雲市と大田市の砂質海岸で、コウボウムギやハマボウフウ群落の根際で多数得られている。他地域でも良好な砂質海岸で生息する可能性がある。

【存続を脅かす原因】

砂質海岸の汚染や破壊、近傍の植林地での殺虫剤散布。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○	○																						○		

カメムシ目カメムシ科

フタテンカメムシ

Laprius gastricus（Thungerg, 1783）

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

本種はシバ草原の地表に生息する特異なカメムシで、放牧業の衰退によって全国的に生息環境が失われている。県内で生息が確認されているのは隠岐（島前）と三瓶の２カ所のみである。

【概要】

体長13㎜前後のカメムシのなかまである。体は灰褐色から黒褐色で小楯板の上端２カ所に白点がある。草食性で、イネ科草本の根ぎわに生息する。成虫で越冬し、石下などに潜んでいる。国内では本州・四国・九州・対馬・屋久島、国外では中国・インドに分布する。

【県内での生息地域・生息環境】

隠岐（島前）の知夫里島の生息地は大部分が牛の放牧地として利用されており、良好なシバ草原の状態が維持されている。その後三瓶北の原でも採集されており、土地的極相がシバ草原のような環境で生息するものと思われる。

【存続を脅かす原因】

放牧の中止など、シバ草原の放置。シバ草原はススキ草原から低木林へと移行するであろう。また、生息地およびその周辺における殺虫剤散布。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
	○		○							○															

カメムシ目カメムシ科

アカアシクチブトカメムシ

Pintheaus sanguinipes（Fabricius, 1787）

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

大型の捕食性カメムシで、県内の生息地が局限され個体数も少ない。森林の自然度の指標となる。

【概要】

体長14－18㎜、緑色の光沢のある褐色で、前胸背側角黒みを帯び測方に突出し、先端は丸い。脚は赤褐色。山地の樹上で生活し、ガ類などの幼虫を捕食する。国内では北海道・本州・四国・九州、国外では朝鮮半島・中国・旧北区に分布する。

【県内での生息地域・生息環境】

三瓶山と西部山地２カ所で記録がある。山地の環境の良好な落葉広葉樹林に生息する。

【存続を脅かす原因】

山地の落葉広葉樹林の伐採や大気汚染などの環境の悪化、殺虫剤散布。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
	○	○		○																					

カメムシ目カメムシ科

アオクチブトカメムシ

Dinorhynchus dybowskyi Jakovlev, 1876

島根県：準絶滅危惧（NT）　写真 口絵21

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

寒地系の捕食性カメムシで、暖地では少ない。県内の山地２カ所で20年前に採集されたが、その後の記録がない。

【概要】

体長18－23㎜、金緑色の光沢のある美麗種。前胸背側角は棘状にとがり、口器は太い。山地の樹上で生活し、ガ類などの幼虫を捕食する。植物からも吸汁することがある。国内では北海道・本州・四国・九州、国外では朝鮮半島・中国・ロシア極東部。

【県内での生息地域・生息環境】

三瓶山と大万木山の２カ所で記録がある。山地の環境の良好な落葉広葉樹林に生息する。

【存続を脅かす原因】

山地の落葉広葉樹林の伐採や大気汚染などの環境の悪化、殺虫剤散布。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
	○	○		○																					

カメムシ目ツノカメムシ科

フトハサミツノカメムシ

Acanthosoma crassicauda Jacovlev, 1880

島根県：準絶滅危惧（NT）
島根県固有評価：－
環境省：－

【選定理由】
大型のツノカメムシで、県内の生息地は局限され、全国的にも希少種とされる。
【概要】
体長17－18㎜、鮮やかな緑色で、オスの生殖節のハサミ状突起は太く後方に開く。前胸背の後側縁に顕著な歯状突起がある。イヌザクラ、ソメイヨシノなどのバラ科木本類に寄生する。国内では本州・四国・九州、国外では朝鮮半島・中国・シベリア東部に分布する。

【県内での生息地域・生息環境】
三瓶山の１カ所で記録がある。サクラ類をまじえた環境の良好な２次林に生息する。
【存続を脅かす原因】
大気汚染などの環境の悪化、植生の遷移。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
	○			○																					

アミメカゲロウ目ウスバカゲロウ科

ハマベウスバカゲロウ

Myrmeleon solers Walker, 1853

島根県：準絶滅危惧（NT） 写真 口絵21
島根県固有評価：－
環境省：－

【選定理由】
海浜植生を伴った砂丘海岸に生息する種であり、県内での生息地も自然度の高い砂浜に限定されている。
【概要】
前翅長27㎜前後。翅は透明で顕著な模様はない。体は全体に黒く、前胸背にY字型の黄褐色斑紋がある。海浜砂丘に生息する。幼虫は、汀線から離れた砂浜や海浜植生帯の汀線寄りの砂地上にすり鉢型の巣穴を造るアリジゴクである。国内では日本海側を中心とした本州、九州の海岸に生息し、国外では中国に分布する。

【県内での生息地域・生息環境】
県内では東部から西部までの砂丘の発達する海岸に生息している。県内の砂浜海岸は、大社から湖陵付近の出雲砂丘が最大で、本種の最大の生息地でもある。隠岐諸島では記録がなく、生息の可能性も低い。全国的にみれば島根県は自然度の高い砂浜が多く残されており、良好な生息地としての価値は高い。
【存続を脅かす原因】
砂浜海岸の開発、海岸浸食。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○	○	○																					○		

コウチュウ目オサムシ科

セアカオサムシ

Hemicarabus tuberculosus Dejian et Boisduvai, 1929

島根県：準絶滅危惧（NT）
島根県固有評価：－
環境省：準絶滅危惧（NT）

【選定理由】
山地草原性のオサムシで分布は局所的。
【概要】
体長16－22㎜。前胸背板は赤銅色。頭部と上翅測縁部も赤銅色を帯びる。上翅の大部は黒色で凸型条列を持つ。中国地方近県では大山を含む中国山地の高標高地帯に残る草原地帯で生息が確認されている。成虫・幼虫ともおもに昆虫類を主食としていると推測される。
晩夏から秋に新成虫が出現して越冬する。
北海道、本州、四国、九州、ユーラシア東部、朝鮮半島に分布。

【県内での生息地域・生息環境】
三瓶山麓の草原周辺で生息している。隠岐で古い記録があるが、誤記の可能性がある。
【存続を脅かす原因】
開発や草原の衰退など、本種の生息に適した環境の悪化。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
	○				○																				

コウチュウ目オサムシ科

イズモメクラチビゴミムシ

Stygiotrechus izumonis S. Uéno, 2008

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：島根県固有種、基準標本産地

環境省：－

【選定理由】

島根半島西部が本種の基準標本産地で、分布も同地域に限定されている可能性が高いため、比較的絶滅のリスクが高い。

【概要】

体長約2.8㎜。淡色、無眼などの地中に適応した形質をもつ。九州北部から瀬戸内に分布するノコメメクラチビゴミムシ属の中でミスミメクラチビゴミムシとともに日本海側に産する特異な種で、本属の一部が日本海の海岸沿いに分散した可能性を示唆する。本属全体の分化を考える上でも重要な種である。

【県内での生息地域・生息環境】

2008 年に島根半島西部の廃坑で採集された 1 オスで記載された種で、その後の採集努力にも関わらず追加の記録を見ない。周辺の廃坑や地下浅層のトラップ調査でも採集例はなく、分布は局所的で個体群の規模も小さいと考えられる。

【存続を脅かす原因】

廃坑内の地下水位変動が少ないことから生息域の地中環境は安定していると思われ、これを攪乱するような地上・地下の改変は絶滅リスクを増大させる。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼	地下	林地	草地	砂浜	河口	
○																				○					

コウチュウ目オサムシ科

タイシャクナガチビゴミムシ

Trechiama yokoyamai S. Uéno, 1958

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：基準標本産地

環境省：－

【選定理由】

島根県に分布する亜種及び地域個体群は分布域が狭く個体群規模が小さいため環境改変による影響を受けやすい。

【概要】

体長5.4－6.4㎜。体は茶褐色で光沢があり、地中に適応した形質をもつが、小さい複眼が見られるなど地表種的な形質も残る。本種は中国地方中央部に広い分布域をもち、５亜種が記載されているほか、未記載のものも含めるとさらに３つ以上の亜種または地域個体群が存在すると考えられる。

【県内での生息地域・生息環境】

県内では浜田市に分布する県固有亜種（ハマダナガチビゴミムシ）のほか、石見銀山、月山（安来市）、船通山、島根半島で分布が確認されており、地理的には孤立しているものが多い。洞窟などのほか、川沿いの腐葉土層など地表付近でも見られることがあるが詳細な分布は不明。

【存続を脅かす原因】

ダム造成などの集水域単位での大規模改変は各亜種・地域個体群を絶滅させるおそれがある。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼	地下	林地	草地	砂浜	河口	
○	○	○													○					○					

コウチュウ目ゲンゴロウ科

コマルケシゲンゴロウ

Hydrovatus acuminatus Motschulsky, 1859

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

【選定理由】

県内の生息地はきわめて局地的である。他県でも同じような傾向がみられる。

【概要】

体長２㎜前後。体型は卵形で背面を微細な点刻と網目状の印刻が覆う。マルケシゲンゴロウによく似ているが、より小型。水生植物の多い溜池の浅瀬や放棄水田をおもな生息地としている。非常に小型であるため、発見されにくい。中東から東アジアまで広く分布する。国内では、本州、四国、九州、南西諸島に分布する。

【県内での生息地域・生息環境】

隠岐諸島を含め、県内の溜池で生息が確認されている。浅瀬で他の小型種のゲンゴロウ類と共に得られることが多い。

【存続を脅かす原因】

生息地の水質汚濁、池沼の開発改修、自然遷移。生息地の浅瀬は水位変動の影響が大きく、極端な渇水も生息地が消失する原因になる。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○			○										○												

コウチュウ目ミズスマシ科

コオナガミズスマシ

Orectochilus punctipennis Sharp, 1884

島根県：準絶滅危惧（NT）

写真 口絵21

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

【選定理由】

河川中流域に生息する小型の流水性ミズスマシであり、県内での生息地は限られている。また、全国的にも減少が著しい水生甲虫の１つである。

【概要】

体長5.5－6.2㎜。体は紡錘形。背面は全体に黒い。上翅表面には微細な毛が密生する。オナガミズスマシより明らかに小型である。オナガミズスマシが山地渓流に生息するのに対し、本種は河川中流域の挺水植物の生えた淀みに生息する。

【県内での生息地域・生息環境】

県内では東部や西部の河川で確認されている。過去の記録がほとんど無いため、現時点でどの程度減少したかは不明である。しかし、生息環境の立地が人間活動の大きな場所に近いため、影響を大きく受けていると見られる。

【存続を脅かす原因】

河川改修。水質汚染、特に洗剤等の界面活性剤の流入。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○		○										○													

コウチュウ目ミズスマシ科

ミズスマシ

Gyrinus japonicus Sharp, 1873

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

【選定理由】

近年、急速に減少している。かつては溜池などの水面を群れて泳ぐ姿がよく見られたが、現在ではほとんど見られなくなっている。

【概要】

体長6.0－7.5㎜前後。体型は紡錘形で背面に鉛色の光沢がある。一般に止水域の開けた水面を旋回しながら泳ぐが、流水環境にも生息する。近似種が数多く存在するが、体長により他種と区別できる。幼虫は水生で、腹部側面に細長い気管鰓を持つ。日本固有種で、北海道、本州、四国、九州に分布する。

【県内での生息地域・生息環境】

隠岐諸島を含めた県内全域に分布する。池沼などの止水域や山地渓流の淀みなどに生息する。

【存続を脅かす原因】

生息地の水質汚濁（特に油の流入）、池沼の開発改修、自然遷移。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○	○	○	○			○	○					○	○												

コウチュウ目ホソガムシ科

チュウブホソガムシ

Hydrochus chubu Balfour-Browne et M. Sato, 1962

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

【選定理由】

県東部のいくつかの溜池で生息が確認されている。県中部および西部の生息状況は不明である。

【概要】

体長2.5㎜前後。体は細長く、体表面に青緑金属光沢を持つ。近縁種のヤマトホソガムシより小型である。止水域に生息する。日本固有種で本州に分布する。水中で遊泳ができず、動きは緩慢である。

【県内での生息地域・生息環境】

やや富栄養な止水域に生息する。県内では溜池で確認されている。生息地での個体数は多い。同所的にスジヒラタガムシが生息していることが多い。島根県東部の生息地は、県外の産地に比べて地点数が多く、全国的にみても重要な生息地域である。

【存続を脅かす原因】

生息地の水質汚濁、池沼の開発改修、自然遷移。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○													○												

コウチュウ目クワガタムシ科

ルリクワガタ

Platycerus delicatulus delicatulus Lewis, 1883

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

主として高齢級のブナ林に生息しており、生息地は限定される。

【概要】

体長オス９－14㎜。メス８－13㎜。オスは緑色を帯びた青藍色、メスは銅色。前胸背板後角が丸みを帯び突出しないことからコルリクワガタ属と区別される。成虫は５～７月に出現する。昼行性で、ブナ等の倒木に集まるほか、まれにカエデやミズナラの新芽に飛来することが知られている。産卵する枯れ木は、コルリクワガタに比べて太いブナの枝、倒木や立枯れ木に依存しているとされる。産卵翌年の秋に材中の蛹室内で羽化し、そのまま越冬後、野外へ脱出する。本州、四国、九州に分布。

【県内での生息地域・生息環境】

県西部、西中国山地で採集されている。分布調査は十分でなく県東部の自然度の高いブナ林にも生息している可能性がある。

【存続を脅かす原因】

大径木を有するブナ林を主体とする森林の維持が必要。これらの森林の大規模開発による消失や、寸断化による生息環境の悪化による絶滅が危惧される。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
		○		○																					

コウチュウ目クワガタムシ科

キンキコルリクワガタ

Platycerus acuticollis akitai Fujita, 1987

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

主としてブナ帯に生息し、生息地は限定される。

【概要】

体長８－11㎜。オスは青みの強い藍色、メスは黒っぽい銅色。成虫は５～６月に出現する。成虫は早春にカエデ類、ミズナラ等の葉が展開しはじめる新芽に飛来し吸汁することが知られている。産卵は林床に落ちた湿度の高い細めの枝や、ブナの倒木に行われる。幼虫はこれらの材を摂食して成長し、翌年秋に材内で羽化し成虫で越冬した後、野外へ脱出する。本州に分布。

【県内での生息地域・生息環境】

中国山地および三瓶山のブナ林で林床の落枝中やミズナラ等の新芽に飛来したものが確認されている。また、隠岐諸島では常緑広葉樹の枯れ枝から発生が確認されている。

【存続を脅かす原因】

生息域であるブナを主体とする森林の開発による消失。また、地域によっては発生源となっている材の採集など、過度の採集圧による絶滅が危惧される。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○	○	○	○	○																					

コウチュウ目クワガタムシ科

ヒメオオクワガタ

Nipponodorcus montivagus（Lewis,1883）

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

全国的に自然環境の良く保全された場所で記録されているが個体数は少ない。島根県での生息域は限定される。

【概要】

体長オス31－47㎜、メス27－32㎜。体は光沢のない黒色。成虫は５～10月に見られ、ヤナギ等の樹液に飛来する。植物に噛み傷を付け滲出する樹液を吸汁する行動をとることが知られるが、島根県での採集例のほとんどは地面を歩行中のものである。また、成虫越冬することも知られている。幼虫はブナ等広葉樹の立枯れ、倒木の材を摂食する。北海道、本州、四国、九州、国外では朝鮮半島、中国に分布。

【県内での生息地域・生息環境】

中国山地東部から西部のブナ帯で記録があるほか、三瓶山でも採集されている。中国山地の西部は採集個体が比較的多い。

【存続を脅かす原因】

樹洞を形成するような老大径木が存在する発達した森林の保全が必要である。これらを有する自然度の高い森林の伐採などによる生息環境の悪化・消失。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
		○		△																					

コウチュウ目センチコガネ科

オオセンチコガネ

Phelotrupes auratus（Motschulsky, 1857）

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

生息地が局限され、また、牛やシカの糞に依存しているため、これらの動物の減少によっては絶滅が危惧される。

【概要】

体長14－22㎜。体上面はふつう金赤色から紫赤色で、金属光沢がある。センチコガネに似るが、頭楯は長めの台形。成虫は４～11月、おもに山地で発生する。牛、馬、シカなどの糞に集まる。メスは地中へ糞を埋めこんで産卵する。幼虫は糞を食べて育つ。シベリア、朝鮮半島に分布し、国内では北海道、本州、四国、九州、対馬、屋久島に分布する。

【県内での生息地域・生息環境】

三瓶山の和牛放牧地、島根半島西部のシカ生息地。

【存続を脅かす原因】

三瓶山における牧畜形態の変化。野生シカの生息域の森林伐採や、シカの捕獲などによるシカの個体数の減少。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
◎	◎			○	○				○																

コウチュウ目コガネムシ科

シナノエンマコガネ

Onthophagus bivertex Heyden, 1887

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

隠岐諸島の放牧地に生息するが、近年はまれになっている。

【概要】

体長７－10㎜。体は黒色で、上翅は褐色を帯び、光沢は鈍い。頭頂の隆起は、大型のオスでは長く伸びた牛角状の突起となり、メスでは横長でわずかに波曲した隆起になる。成虫は、６～９月に出現し、山地の獣糞にあつまる。国外ではシベリア、中国、朝鮮半島に分布し、国内では本州、四国、九州に分布する。

【県内での生息地域・生息環境】

隠岐諸島（知夫里島）の放牧地に生息し、牛馬糞に依存しているが、個体数は少ない。

【存続を脅かす原因】

生息地での牧畜形態の変化。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
			○							○					△										

コウチュウ目コガネムシ科

ミツノエンマコガネ

Onthophagus tricornis（Wiedemann, 1823）

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内における生息地が限定されている。

【概要】

体長12－18㎜。黒色で光沢は鈍い。頭頂部に板状で両端が上方に突出する角状の隆起がある。前胸背板の前縁部中央は前方に鈍く太い突出がある。成虫は、５～11月に出現する。河川敷や海岸部に生息する。腐った魚肉に集まり、灯火にも飛来する。国外では中国、台湾、ジャワ、マレー半島、インドシナ、ミャンマー、インドに分布し、国内では本州、九州、壱岐島に分布する。

【県内での生息地域・生息環境】

島根県東部に生息する。生息地は、畑地や裸地、疎林が混在する環境である。

【存続を脅かす原因】

裸地的な環境の消失。農業形態の変化。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○																○	○								

コウチュウ目コガネムシ科

ニセマグソコガネ

Aegialia nitida Waterhouse, 1875

島根県：準絶滅危惧（NT）
島根県固有評価：－
環境省：－

【選定理由】
生息地が局限されており、また、生息密度も少なく希少であるため。

【概要】
体長3.5－4.5㎜。黒色で光沢があり、頭胸前縁、上翅会合部、脚は赤褐色。背面は強く隆起する。眼は上面に出ない。上翅には細い条溝がある。体の腹面には、黄色の長毛を生ずる。成虫は、ほぼ通年見られる。本種は、きれいな砂浜のイネ科植物などの根際に生息している。日本固有種で、北海道、本州、九州に分布する。

【県内での生息地域・生息環境】
県東部・中部の海浜植生の残された砂浜。

【存続を脅かす原因】
海浜の護岸工事、砂浜への車の乗り入れによる海浜植生の減少、松食い虫防除のための空中薬剤散布。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
◎	◎																						○		

コウチュウ目コブスジコガネ科

コブナシコブスジコガネ

Trox nohirai Nakane, 1954

島根県：準絶滅危惧（NT）
島根県固有評価：－
環境省：－

【選定理由】
成虫の記録が少なく、幼虫の成育場所が特殊である。

【概要】
体長5.5－6.7㎜。体は長卵型で、強く膨隆する。背面は黒色で光沢がある。上翅の条溝内の点刻は強く、間室は強く膨隆し、短毛を密生したこぶや隆起を欠く。成虫は、4～10月に出現する。平地から山地にかけて分布し、おもに灯火で採集される。近年、本種の幼虫がフクロウの巣で成育することが確認され、特殊な生育環境を必要とすることが判明した。朝鮮半島に分布し、国内では北海道、本州、四国、九州、伊豆諸島に分布する。

【県内での生息地域・生息環境】
県東部の平地や山間地において灯火採集の記録がある。

【存続を脅かす原因】
フクロウの営巣場所の減少。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○									○																

コウチュウ目コガネムシ科

アカマダラハナムグリ（アカマダラコガネ）

Anthracophora（*Poecilphilides*）*rusticola* Burmeister, 1842

島根県：準絶滅危惧（NT）
島根県固有評価：－
環境省：情報不足（DD）

【選定理由】
分布は局所的で個体数も少ない。

【概要】
体長14－20㎜。背面は赤褐色に不規則な小黒紋を有する。成虫は4～9月に出現。晩夏から秋に新成虫が出現してそのまま越冬、翌春に産卵が行われる。主としてクヌギ等の樹液に集まるほか、灯火、まれに花に飛来することも知られている。平地から低山地の広葉樹林に生息する。カワウや猛禽類の巣中から幼虫が見いだされ、これらの鳥類に依存していると推測される。国内では北海道、本州、四国、九州、国外ではシベリア東部、モンゴル、中国に分布。

【県内での生息地域・生息環境】
島根県東部の平野部から低山地、隠岐諸島で記録がある。県中部、西部からの記録はないが生息している可能性は高い。

【存続を脅かす原因】
本種が生息する低山地帯の猛禽類などの大型鳥類が多数営巣可能な森林の伐採。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○			○						○												○				

コウチュウ目コガネムシ科

オオチャイロハナムグリ

Osmoderma opicum Lewis, 1887

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

【選定理由】

老大木等に依存する特異な生活様式を持ち、発達した森林の指標昆虫でもある。

【概要】

体長22－32㎜。体は全体に黒褐色で銅色ないしは紫銅色の光沢を帯びる。成虫は独特の芳香を放つ。成虫は７～８月に、高標高の自然環境の良好な林分に生息し、ブナ、ミズナラ等の立枯れ木、老大木に見られる。産卵はこれらの材の腐朽部に行われ、幼虫は腐朽部および樹洞内部の材が堆積した腐植土を摂食して育ち、繭を作り蛹化することが知られている。本州、四国、九州に分布。

【県内での生息地域・生息環境】

県中部（三瓶山）、西部の老大径木の残存するブナ帯森林で採集されている。倒木の不朽部から採取されている。県西部の中国山地は採集例が多い。

【存続を脅かす原因】

樹洞を形成するような老大径木が存在する森林の伐採等、生息環境の悪化・消失。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	湿地	森林	草原	農地	河川	湖沼	湿地	森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○	○	○						○						○											

コウチュウ目ヒメドロムシ科

アヤスジミゾドロムシ

Graphelmis shirahatai（Nomura, 1958）

島根県：準絶滅危惧（NT） 写真 口絵21

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧ⅠＢ類（EN）

【選定理由】

県内での分布は局所的である。河川中下流域に生息するヒメドロムシで、全国的な希少種である。斐伊川下流の個体群は生息数が多く貴重である。

【概要】

体長3.4－3.7㎜。全体に黄色だが上翅の点刻列に沿って黒条がある。体はやや細長く、肩は明瞭。前胸背板にくびれがない。触角は糸状で長い。上翅の点刻列は明瞭。肢が著しく長く、爪が大きい。成虫・幼虫共に水中に生息し、ヤナギ類などの流木を食べる。

【県内での生息地域・生息環境】

県東部の河川に生息している。斐伊川下流の本流と神戸川中流の支流がおもな生息地である。とりわけ水位変動の大きな斐伊川は本種の生息にとって重要な条件であると考えられる。

【存続を脅かす原因】

流木の減少。極端な渇水。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○												○						○							

コウチュウ目ヒメドロムシ科

ケスジドロムシ

Pseudamophilus japonicus Nomura, 1957

島根県：準絶滅危惧（NT） 写真 口絵21

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

【選定理由】

水辺植生の豊かな河川に生息し、生息地における個体数が少ない。

【概要】

体長4.8－5.3㎜。国内最大のヒメドロムシ。体は長い楕円形。全体に黒色または焦げ茶色。上翅に点刻列があり、間室に毛が生えている。河川の上流から下流まで広く生息する。成虫・幼虫ともに水中にある流木についていることが多い。成虫は灯火に飛来する。小型の幼虫は、川辺の水中に露出したツルヨシの根際にも生息している。幼虫期は２年以上と考えられる。日本固有種で、本州と九州に分布する。

【県内での生息地域・生息環境】

県内では県東部の河川に生息が確認されている。中部および西部にも分布しているとみられる。隠岐諸島には分布していない。

【存続を脅かす原因】

水辺植生の破壊、流木の供給の減少。極端な渇水。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○						○						○						○							

コウチュウ目ヒメドロムシ科

ハガマルヒメドロムシ

Optioservus hagai Nomura, 1958

島根県：準絶滅危惧（NT）　写真 口絵21

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧ⅠB類（EN）

【選定理由】

県内の分布は局地的である。また、河川における生息環境も特殊である。

【概要】

体長2.2－2.5㎜。体は全体に楕円形で、背面側に著しく盛りあがる。黒色で光沢が強いが、上翅の基部と先端に黄褐色の紋がある。触角は糸状で長い。上翅の点刻列は条溝を伴う。日本固有種で本州、九州、隠岐諸島に分布する。

【県内での生息地域・生息環境】

県内では、県東部、中部、隠岐諸島（島後）で確認されている。比較的流れが緩い細流で多産することがある。山地渓流で見つかることもあるが、個体数は少ない。離島での記録は隠岐諸島のみであり、生物地理学的に注目される。

【存続を脅かす原因】

河川改修、大規模な水害。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼	湿地	林地	草地	砂浜	河口	
○	○		○			○						○								△					

コウチュウ目ヒメドロムシ科

ヨコミゾドロムシ

Leptelmis gracilis Sharp, 1888

島根県：準絶滅危惧（NT）　写真 口絵22

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

【選定理由】

県内の分布は局地的で個体数も少ない。

【概要】

体長2.6－3.0㎜。全体に黒色。上翅に黄色い縦スジの模様があるが、不明瞭。体はやや細長く、肩の隆起は不明瞭。前胸背板に顕著なくびれと横溝がある。触角は糸状で長い。上翅の点刻列は明瞭。肢は著しく長い。近縁種とされたホソヨコミゾドロムシは、本種の長翅型であることが判明している。幼虫は扁平で、日本産ヒメドロムシ科の中では特異な形態をしている。日本固有種で本州、四国、九州に分布する。

【県内での生息地域・生息環境】

県内では東部に河川下流と溜池で確認されている。長翅型は短翅型に比べて出現率が低い。溜池では短翅型のみが確認されている。

【存続を脅かす原因】

河川や溜池の改修、極端な渇水。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○												○	○					○	○						

コウチュウ目ジョウカイモドキ科

イソジョウカイモドキ

Laius asahinai Nakane, 1955

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：情報不足（DD）

【選定理由】

浜田の海岸で発見され、日本海側での初記録として注目された。その後の記録がなかったが、近年の調査で再発見された。岩礁帯の特殊な環境に生息する種で絶滅の危険性が高い。

【概要】

体長4.5－5.0㎜前後。背面は黒色でやや光沢を欠き、触角の基半分は赤褐色。上翅は微細な印刻があり、オスの触角第３節は異常に太い。海浜性で本州、九州に分布し、成虫は５月ごろから汀線の岩礁に見られる。

【県内での生息地域・生息環境】

1960年、浜田市福井の岸から離れた岩礁の割れ目で、水際に群棲していた本種が採集されたのが唯一の記録であったが、近年の調査で島根半島から大田市琴ヶ浜までの５カ所の岩場の岩礁帯や隠岐（島後）の岩礁で確認された。高波時には波に覆われるような岩礁の波打ち際の隙間などで採集されている。

【存続を脅かす原因】

大規模工事、漂流物の堆積など環境の改変・悪化を避ける。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	岩礁
○	○	○	○																						◎

コウチュウ目オオキノコムシ科

オオキノコムシ

Encaustes praenobilis Lewis, 1883

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

分布は局地的で個体数も少ない。生息場所であるブナ林の消失や周辺林の伐採等の環境悪化による減少が懸念される。

【概要】

体長16－36㎜。長楕円形。光沢のある黒色で前胸、上翅肩部および翅端にオレンジ色の斑紋がある。成虫はブナ林中の大径枯死木、倒木に発生したサルノコシカケ等の多孔菌類を食べるほか、アミスギタケ、ハチノスタケ、ツリガネタケに集まる。また、灯火にも飛来することが観察されている。幼虫は多孔菌類の子実体中や、これら菌糸が蔓延した材部で見つかる。本州、四国、九州に分布。

【県内での生息地域・生息環境】

中国山地のブナ林において記録があり、いずれもブナ大径木が多い場所に限られている。県西部の採集記録が多い。

【存続を脅かす原因】

本種の生息環境であるブナの大木を有する成熟した林分の伐採や道路開設等によるブナ林寸断による林の乾燥化。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○		○		○																					

コウチュウ目テントウムシ科

マクガタテントウ

Coccinula crotchi（Lewis, 1879）

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：分布限界種（西限）

環境省：－

【選定理由】

河川敷などの荒地に生息する日本固有のテントウムシ。島根県は分布の西限にあたる。生息地は人為の影響を受けやすい環境であり、河川敷環境の生物多様性の指標として選定した。

【概要】

体長約３－４㎜。背面は黒色で、特徴的な橙色斑を有する。北海道や東北では比較的普通だが、西日本では分布は局地的。北海道では年１世代、西日本では２世代を経過し、越冬後成虫の発生量は少ない。発育には温帯性種としては高い温度（約14℃以上）を要求する。

【県内での生息地域・生息環境】

斐伊川中流域には比較的高い密度の個体群が確認されている。その他、江の川や高津川の河川敷、三瓶山、さらに、鳥取県の弓ヶ浜でも分布が確認されている。

【存続を脅かす原因】

河川敷の大規模な土地利用改変により環境が画一化すると個体群が消滅する。また、南西限界付近の個体群として、地球温暖化の影響により気候適応が破綻する可能性がある。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○	○					○						○						○							

コウチュウ目カミキリムシ科

ベーツヒラタカミキリ

Eurypoda batesi Gahan, 1894

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

シイ類大径木の残存する照葉樹林に生息するが個体数は少なく生息環境も縮小している。

【概要】

体長26－34㎜。体は扁平で光沢のある赤褐色。成虫は６～９月に出現する。夜行性で日中はスダジイなど寄生木の枯死部にある隙間などに潜み、夜間にこれらの立枯れ木、倒木上を徘徊するほか、灯火にも飛来することが観察されている。関東以西の本州、四国、九州、中国南西部、ラオスに分布。

【県内での生息地域・生息環境】

県東部から県央の沿岸から内陸部にかけて記録があるが、沿岸に近い区域に多い。隠岐諸島にも採集記録がある。７～８月に灯火に飛来したものが得られた例が多い。比較的民家に近い場所で採集されているが、社寺林に寄生樹種の老大木が多く残存しているためと思われる。

【存続を脅かす原因】

依存するシイ類の老大木を有する照葉樹林の消失。また、貴重な生息場所である社寺林等において景観対策や危険木としての枯死・衰弱木の伐倒による繁殖場所の消失。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○			○						△						○										

コウチュウ目カミキリムシ科

スネケブカヒロコバネカミキリ

Merionoeda hirsuta（Mitono et Nishimura, 1936）

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

南方系の特異な形態をしたカミキリで、隠岐（島前・島後）のほか、中国山地の赤来、匹見で採集されていたが、近年、三瓶山山麓でも採集された。個体数が多くない。

【概要】

体長 10－14㎜。上翅が短く、腿節末端は肥大して暗色の長毛があり、脛節には金色の長毛が密生する。成虫は 7～8月に出現しカラスザンショウ、アカメガシワ、リョウブなどの花に集まり、メスはネムノキの枯死部に飛来して産卵する。本州（茨城県以西）、四国、九州、対馬に分布する。近年は近県で採集記録が散見される。

【県内での生息地域・生息環境】

1950 年に匹見町初見で初めて採集された。その後、隠岐（島後）の大満寺山で成虫が採集され、ネムノキの枯死部で幼虫と蛹が確認された。隠岐（島後、西ノ島、中ノ島）、赤来、匹見のほか、近年、三瓶山山麓で採集された。

【存続を脅かす原因】

食樹のネムノキはどこでもあるが、本種の分布が限られる理由は不明。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○	○	○	○	○																	○				

コウチュウ目カミキリムシ科

ヨコヤマヒゲナガカミキリ

Dolichoprosopus yokoyamai（Gressiitt, 1937）

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

本州、四国、九州に分布するが個体数は少ない。ブナ林に依存する種で、本県では生息に適したブナ大径木が多く残存する環境は少ない。

【概要】

体長20－30㎜。体は黒色で背面に灰白色の微毛を持ち、霜ふり状の斑紋、帯状紋を形成している。ブナ大径木の存在する林分に生息し、成虫は7～9月に出現する。ブナの生立木に寄生する。日中根元の落葉樹下に潜む事が観察されている。夜行性で夕刻から夜間、ブナ生立木の幹上に集まるほか、灯火にも飛来する。成虫の脱出孔はブナ生立木の地際部や、幹の衰弱部に多く観察されている。本州、四国、九州に分布。

【県内での生息地域・生息環境】

県中部で採集記録がある。近年、三瓶山で少数の個体が採集されている。

【存続を脅かす原因】

生息確認地域周辺ブナ林の伐採による生息環境の破壊。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
	○	○		○																					

コウチュウ目カミキリムシ科

イッシキキモンカミキリ

Gleneacent centroguttata Fairmaire, 1897

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

関東以西、四国、九州に分布するが局所的。

【概要】

体長11－16㎜。黒色微毛のビロード状に覆われた体に、頭部、前胸背及び上翅に鮮やかな美しい黄色紋を持つ。成虫は7～8月に出現し、クワ類の葉脈を後食する。夕刻に活動が活発になり、1本の木に集中して集まることが観察されている。幼虫はヌルデを寄主としている。本州、四国、九州に分布。

【県内での生息地域・生息環境】

県中部、西部で記録がある。西部での記録は少ないが、三瓶山南西部では桑畑での採集記録が多い。県中部では古くから養蚕用のクワ栽培が盛んであった地域で、桑畑の周辺にヌルデが生育する二次林が広がる場所が多い。

【存続を脅かす原因】

成虫、幼虫それぞれの食物であるクワ類、ヌルデの双方が豊富に存在する林が必要。残存するクワの転作や開発等、二次林の消失によって個体数の減少、絶滅が危惧される。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
	○	○		○					○																

コウチュウ目ハムシ科

キンイロネクイハムシ

Donacia japana Chûjô et Goecke, 1956

島根県：準絶滅危惧（NT）
島根県固有評価：－
環境省：準絶滅危惧（NT）

【選定理由】
食草であるミクリ属の生える溜池や水路などが減少しており、それに伴い生息地も減少している。

【概要】
体長７㎜前後。体全体に金銅色を帯び、上翅に赤または青色の斑紋がある。ヤマトミクリやヒメミクリなどを食草としており、成虫は抽水葉を食べ、幼虫は地下で根を食べる。成虫はおもに５～６月に出現する。日本固有種で北海道、本州、九州に分布する。

【県内での生息地域・生息環境】
県東部のミクリ属の生える溜池や水路などに生息している。生息地では個体数が多く、ミクリの葉には食痕がみられる。

【存続を脅かす原因】
ミクリ類の減少。生息地の水質汚濁、池沼の開発改修、自然遷移。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○	○												○												

コウチュウ目ハムシ科

スゲハムシ

Plateumaris sericea（Linnaeus, 1758）

島根県：準絶滅危惧（NT）
島根県固有評価：－
環境省：－

【選定理由】
湿地に生息する北方系のハムシで、県内での記録は１カ所のみである。

【概要】
体長７－９㎜で体全体に金属光沢がある。成虫は５～６月に出現し、スゲなどの花に集まり花粉を食べる。幼虫はスゲ類の根を食害する。
ヨーロッパから日本まで、旧北区に広く分布する。国内では、北海道、本州、九州、佐渡などに分布する。北海道や本州東部ではもっとも普通にみられるネクイハムシであるが、西日本での分布は局地的で、中国山地の個体群は希少性が高い。近縁種にシラハタネクイハムシがおり本種に酷似しているが、西日本には分布していない。

【県内での生息地域・生息環境】
県内では、県中部の湿原で確認されているのみで、本州での分布の西限となっている。広島県との県境付近の湿地で発見される可能性がある。

【存続を脅かす原因】
湿原の自然遷移や乾燥。気候の温暖化。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	湿地	森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
	○							○																	

ハチ目アナバチ科

ヤマトスナハキバチ

Bembecinus hungaricus japonicus（Sonan, 1934）

島根県：準絶滅危惧（NT）
島根県固有評価：－
環境省：情報不足（DD）

【選定理由】
典型的な海浜性のカリバチで、海浜の開発や破壊による海浜固有の生態系の喪失で、生息密度が激減している。

【概要】
体長はメスが10－11㎜、オスが９－10㎜。小型のアナバチである。全体が黒色を呈し、腹部の１～３節板後縁に淡黄色の横縞がある。年１化性で、活動期間は７月上旬から９月下旬である。幼虫餌として、同翅亜目の成虫を狩る。砂地に穿孔し、緩やかに下降した坑道（坑道長：2.5－９㎝）の先端に１個だけ育房を作製する単育房制で、育房内に砂粒の台座を作り、その上に卵を垂直に産下する。最初の貯食は、産卵後しばらく経って行われる。随時給食制で、給餌は育房口をそのつど開閉して行われる。越冬は、育房内の繭中において前蛹態で行う。北海道から屋久島まで広く分布する。

【県内での生息地域・生息環境】
大社砂丘だけで局所的に採集されている。

【存続を脅かす原因】
海浜固有の生態系の破壊。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○																							○		

ハチ目スズメバチ科

キオビホオナガスズメバチ本州亜種

Dolichovespula media sugare Ishikawa, 1969

島根県：準絶滅危惧（NT）
島根県固有評価：－
環境省：情報不足（DD）

【選定理由】
近年、中国地方の山岳地帯でも生息が確認された。生息密度は低く、分布の南限にあたる。

【概要】
真社会性種で、女王はキイロスズメバチに擬態している。働きバチの腹部斑紋の変異は多様で、「五目蜂」と称される。体長は女王が19－22㎜、働きバチが14－19㎜、オスが19㎜前後である。巣房を樹幹の小枝にぶらさげる。スズメバチ類のなかでは、コロニーのサイズは最小である。年１化性で、秋期に出現した次世代の女王とオスが交尾し、受精後に女王だけが朽木などに穿孔して越冬する。国内では、本州中部以北の山岳地帯では豊産する。原亜種は（*D. m. media*（Retzius））、旧大陸のほか北海道にも産する。

【県内での生息地域・生息環境】
大万木山、安蔵寺山で局所的に採集されている。最近、邑智郡川本町の国有林と三瓶山で巣が発見された。豊かな自然林が残された山岳地帯だけに生息している。

【存続を脅かす原因】
豊かな自然林の喪失。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
	○	○		○	○																				

ハチ目ハキリバチ科

キヌゲハキリバチ

Megachile kobensis Cockerell, 1918

島根県：準絶滅危惧（NT）
島根県固有評価：－
環境省：－

【選定理由】
典型的な海浜性のハナバチで、海浜の開発や破壊による海浜固有の生態系の喪失で、生息密度の維持が危惧される。ハマゴウの重要な送粉者である。日本固有種。

【概要】
体長はメスが９－11㎜、オスが ８－10㎜で、体全体が白毛で覆われた中型のハキリバチである。部分的２化性で、越冬は育房内において前蛹態で行う。活動期間は、大社砂丘では６月中旬から９月中旬までの３カ月間にも及ぶ。広食性種であるが、ハマゴウのスペシャリスト的な送粉者である。砂地に緩やかに傾斜した単坑を掘り（深さ２－７㎝）、その先端に１～３個の育房を直列に配置する。育房は葉片で作製される。国内では、本州・四国・九州に分布する。

【県内での生息地域・生息環境】
県内の海浜では、ハマゴウの生育が良好であれば普遍的に生息する。汀線から離れた堆砂垣周辺の砂丘内で営巣する。

【存続を脅かす原因】
海浜生態系の破壊。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○	○	○																					○		

ハチ目ハキリバチ科

チビトガリハナバチ

Coelioxys formosicola Strand, 1913

島根県：準絶滅危惧（NT）
島根県固有評価：－
環境省：－

【選定理由】
典型的な海浜性のハナバチで、海浜の開発や破壊による海浜固有の生態系が喪失し、生息密度の維持が危惧される。

【概要】
体長はメスが８－12㎜、オスが７－12㎜で、雌雄とも胸部の背面に目立つ４つの白斑がある。キヌゲハキリバチの労働寄生蜂である。寄生様式は「空き巣ねらい型」で、寄主の留守中に育房内に侵入して、貯めかけの花粉団子中に数卵を産下する。活動期間は、寄主と同じである。部分的２化性で、寄生した寄主の育房内において前蛹態で越冬する。海浜周辺で生育するコマツナギ、ハギ類のほか海浜性のハマグルマをよく訪花する。国内の分布域は、寄主のそれと同一である。

【県内での生息地域・生息環境】
県内の海浜では、ハマゴウの生育が良好であれば、寄主ともども普遍的に生息する。

【存続を脅かす原因】
海浜固有の生態系の破壊。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○	○	○																					○		

ハチ目ハキリバチ科

ネジロハキリバチ

Megachile disjunctiformis Cockerell, 1911

島根県：準絶滅危惧（NT）
島根県固有評価：－
環境省：－

【選定理由】
準海浜性のハナバチで、国内では局所的に採集されている。
【概要】
体長はメスが15－18㎜、オスが12－14㎜。中型のハキリバチである。全体が黒色を呈し、前伸腹節と腹部の１節背板に白毛が密生する。年１化性で、活動期間は７月下旬から９月下旬である。典型的な広食性で、大社砂丘周辺ではハギ類でよく採集される。また、海浜のハマゴウでもしばしば採集される。営巣は、海浜周辺のブドウ用ビニールハウスで使用されるフレーム管の内部を利用して行われていると推測される。育房は樹脂を用いて作製される。なぜ、海浜を好んで生息するのか不明である。国内では、本州から南西諸島の西表島まで広く分布する。国外では、台湾・中国・朝鮮半島にも産す。
【県内での生息地域・生息環境】
大社砂丘だけで局所的に採集されている。
【存続を脅かす原因】
海浜固有の生態系の破壊。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○																							○		

ハチ目ミツバチ科

シロスジコシブトハナバチ

Amegilla quadrifasciata（Villers, 1789）

島根県：準絶滅危惧（NT）
島根県固有評価：－
環境省：－

【選定理由】
準海浜性のハナバチで、国内では採集個体数が少ない。
【概要】
体長はメスが15－17㎜、オスが13－14㎜で、がっしりした体躯をもつ。腹部の１～４節背板後縁に白毛帯がある。名前はこの特徴に由来する。稀種のため、生態に関する知見は皆無に近い。年１化性で、活動期間は７月下旬から９月中旬までである。典型的な広食性で、海浜ではハマゴウの花でしばしば採集される。営巣地は、海浜に流れ込む大小河川脇の切り通しの砂壁と推測される。内陸部でも、営巣地は砂壁であろう。国内では、本州・四国・九州から分布記録がある。国外では、旧大陸にも産する。
【県内での生息地域・生息環境】
大社砂丘（出雲市）、波子海水浴場（浜田市）、三里ケ浜（益田市）のほか、三瓶山でも局所的に採集されている。
【存続を脅かす原因】
特異な環境に営巣するので、このような環境の喪失は生息を不可にする。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○	○	○			○	○																	○		

ハエ目メバエ科

ムネグロメバエ

Conops opimus Coquillett, 1898

島根県：準絶滅危惧（NT）
島根県固有評価：－
環境省：－

【選定理由】
国内では、採集個体数がきわめて少ない寄生性種である。
【概要】
体長はメスが12－18㎜、オスが12－17㎜。メバエ類のなかでは大型種である。個体の大小差は、寄主サイズに由来すると考えられる。全体が茶褐色を呈する。両複眼の内縁部には、それぞれ１個の黒点がある。最近の大社砂丘における調査によると、オオズグロメバエよりも早く出現し、活動期間は５月中旬から７月上旬である。寄主は、ヒメハナラナガツチバチと推定される。寄主がよく訪花するハマヒルガオの花の周辺で待ち伏せが見られる。国内では本州・九州に、国外では中国・韓国にも分布している。
【県内での生息地域・生息環境】
松江市と大社砂丘（出雲市）で採集されている。
【存続を脅かす原因】
海浜固有の生態系の破壊。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○		○			○					○													○		

チョウ目マダラガ科

オキナワルリチラシ

Eterusia aedea sugitanii Matsumura, 1927

島根県：準絶滅危惧（NT）
島根県固有評価：分布限界種（北限）
環境省：－

【選定理由】
南方系で隠岐（島後）では、古くから生息が知られ分布上注目されている。隠岐諸島の昆虫相を特徴づける重要種である。

【概要】
国内では、本州（伊豆半島以西）、四国、九州、対馬などに分布し、緑色に白い斑紋のある美麗種で、８～９月に出現する。近年、広島県安佐町では著しく黒化した個体が採集され、山口県でも採集されている。 八重山諸島には各別亜種が分布する。

【県内での生息地域・生息環境】
隠岐（島後）の山地に生息し個体数も比較的多い。島前の知夫里島に記録があるが再確認が必要である。メスは昼にソバなどの白い花に来るが、夜灯火に飛来するのはオスだけである。 山陰本土側は、これまで未発見であったが、近年、匹見の澄川で採集された。幼虫の食樹はヒサカキ・ツバキなどである。

【存続を脅かす原因】
幼虫の食樹のヒサカキは多いが、蜜源のソバ畑が急激に減少しており、発生量に影響するか否か要観察。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
		○	◎	○																	○				

チョウ目シャクガ科

シロシモフリエダシャク

Biston melacron Wehrli, 1941

島根県：準絶滅危惧（NT）
島根県固有評価：－
環境省：－

【選定理由】
県内での生息地が限定され、日本全国的に見ても、その分布が局地的である。

【概要】
前翅長18－23㎜程度。大きさにはかなり個体差がある。白い翅に特徴ある黒い斑紋を散らしたエダシャクで、成虫は早春にのみ現れる。本州、四国南部、九州、対馬に分布。国外では台湾、朝鮮半島、中国に分布するとされる。生活史等については不明な点が多く、食草なども未知。

【県内での生息地域・生息環境】
県中部の三瓶山周辺と東部および西部の中国山地沿いの地域で見つかっている。いずれもやや標高の高い場所である。また近年、隠岐郡西ノ島町で生息が確認された。

【存続を脅かす原因】
分布および生息環境の調査が必要だが、雑木林を含む森林の消滅が考えられる。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○	○	○	○	○					○																

チョウ目アゲハモドキガ科

フジキオビ

Schistomitra funeralis Butler, 1881

島根県：準絶滅危惧（NT）
島根県固有評価：－
環境省：－

【選定理由】
県内での生息地がきわめて局地的。個体数も多くない。

【概要】
前翅長28㎜内外。翅は黒の地色に、クリーム色から黄色に近い大きな模様を規則正しく並べているのが特徴。全体的に明るい色彩をもっている。日中に活動する蛾で、成虫の発生は年に一度、６月ごろ。花に集まる。幼虫はナツツバキにつき、蛹で越冬するといわれる。１属１種で、今のところ日本特産種。本州の関東地方以西および四国、九州に分布する。

【県内での生息地域・生息環境】
県東部と中部のいずれも中国山地沿いの地域にごく限られた生息地があるにすぎない。山地の雑木林や周辺に広がる草原などがおもな生息場所と考えられる。

【存続を脅かす原因】
山地の良好な森林やそれと併存する環境（草原など）の減少、消滅。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
△	○			△					○																

チョウ目カイコガ科

スカシサン

Prismosticta hyalinata Butler, 1885

島根県：準絶滅危惧（NT）
島根県固有評価：－
環境省：－

【選定理由】
県内での採集記録が２例のみで、生息地がきわめて限定される。
【概要】
前翅長16㎜内外。触角はオス、メスとも櫛歯状。翅の色はメスが明るい茶色で、オスはこげ茶色が主体となる。前翅、翅頂近くには半透明の紋がある。かつてはオビガ科に入れられスカシオビガと呼ばれていたという。成虫は７～８月に出現、幼虫はハイノキ科のサワフタギ、タンナサワフタギを食樹としている。国内では本州（関東地方以西）、四国、九州に分布する。国外については不詳。いまのところ日本特産種。全国的にもあまり多くないガで、特にメスは少ないとされる。県内ではメスが１個体採集されていただけだったが、近年オスも採集された。
【県内での生息地域・生息環境】
県中部、三瓶山でのみ生息が確認されている。確認地はシデ主体の落葉樹林地帯。
【存続を脅かす原因】
良好な落葉樹林帯の減少や消滅。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
	○			○					△																

チョウ目ヤママユガ科

クロウスタビガ

Rhodinia jankowskii hattorie Inoue, 1965

島根県：準絶滅危惧（NT）
島根県固有評価：－
環境省：－

【選定理由】
県内での産地が限られ、個体数がきわめて少ない。
【概要】
前翅長45㎜内外。明るい黄色の翅をもつ近縁種ウスタビガ*Rhodinia fugax fugax*（Butler, 1877）をかなり黒っぽくしたようなヤママユである。まさに名前のとおり。またウスタビガは翅の色や形などが、オスとメスとではなはだしく異なっているのに対し、本種はほぼ同じである。前後翅にはそれぞれに透きとおった三日月型の紋をもつ。成虫は年に１回、秋に出現。幼虫はキハダを食草としている。寒冷地の種で北海道から本州北部にかけては少なくないといわれるが、西日本では希種となる。国内では北海道、本州、四国、九州に、国外では朝鮮半島、中国、ロシア南東部に分布する。
【県内での生息地域・生息環境】
県東部の中国山地沿いと中部の三瓶山、大万木山周辺に生息地がある。
【存続を脅かす原因】
良好な落葉樹林帯および里山的環境の減少や消滅。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
△	○			○					○																

チョウ目シャチホコガ科

タッタカモクメシャチホコ

Cerura tattakana（Matsumura, 1927）

島根県：準絶滅危惧（NT）
島根県固有評価：－
環境省：－

【選定理由】
県内の生息地が局地的であり、個体数も少ない。
【概要】
前翅長34－40㎜。大型のシャチホコ。翅、体ともに白と黒を絡めた色彩で、特に前翅の黒い波状の斑紋が特徴的である。成虫は６月ごろに出現、年２化とも考えられるが、県内での詳しい観察報告はない。国内では本州、四国、九州、対馬、屋久島、奄美大島、沖縄諸島、八重山諸島に、国外では台湾、中国南東部、ベトナム、タイ、ミャンマーなどに分布。国内では西部地域に多く見られ、これは食草であるイイギリの分布と重なるという。
【県内での生息地域・生息環境】
県中部の三瓶山周辺および西中国山地の一部で生息が確認されている。照葉樹林と落葉樹林が混ざり合った場所に生息地があると考えられる。
【存続を脅かす原因】
良好な森林環境の減少、消失。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
	○	○		○					○																

チョウ目ヒトリガ科

ネズミホソバ

Pelosia angusta（Staudinger, 1887）

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

本州における分布が局地的であり、一般的に個体数も少ない。島根県でも分布は局地的であり、既知の生息地のほとんどが人為的な攪乱を受けやすい平地の湿地や里山周辺である。

【概要】

開張16－17㎜程度、コケガ亜科に属する小型種であり、国内では1906年に隠岐（島後）の西郷で初めて採集された。その後、北海道、本州、対馬で記録されているが、北海道以外では非常に少ない。中国地方では島根県と鳥取県で記録がある。国外ではシベリア南東部、サハリンに分布する。

【県内での生息地域・生息環境】

県内ではこれまでに隠岐（島後）の西郷で２個体、邑智から１個体が採集されていたにすぎず、非常にまれな種と考えられていた。しかし、近年の調査で島根半島の複数の地点と三瓶山で生息が確認された。島根半島ではおもに低地の湿地周辺で確認されている。隠岐（島後）では1967年以降の採集例がなく、調査が必要である。

【存続を脅かす原因】

生息地周辺の林地、植生など自然環境の改変。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○	○		○	○					○						○			○	○						

チョウ目ヤガ科

ホソバミツモンケンモン

Cymatophoropsis unca（Houlbert, 1921）

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内の生息地が限定され、国内他地域でも同様に産地は限られる。

【概要】

前翅長15㎜内外。前翅にある白く縁どられた３つの斑紋が鮮やかで、特徴的である。成虫の出現は、県内では５～８月にかけて。幼虫はネコノチチを食樹とするということが近年判明した。国内では本州（中国地方）、四国、九州に分布する。生息域は狭い。国外では、朝鮮半島、中国、チベットに分布。同属のミツモンケンモン *Cymatophoropsis trimaculata*（Bremer, 1861）は国内での絶滅が懸念されている。

【県内での生息地域・生息環境】

県東部の島根半島および雲南市、出雲市、県西部の西中国山地周辺で見つかっている。本種と石灰岩質土壌に固有の植生との関係が再三指摘されているが、県内においては関係は薄いと思われる。

【存続を脅かす原因】

良質な林の減少、消滅。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○		○		○					○						○										

チョウ目ヤガ科

クビグロケンモン

Viminia digna（Butler, 1881）

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

【選定理由】

県内での生息地がきわめて局地的である。

【概要】

前翅長16－22㎜。前翅に特異な斑紋を持つ。体、翅の大きさにはかなり個体差がある。成虫は４～５月と８月に出現、年２化と思われる。春に出るものは翅の斑紋は鮮明だが、色は全体に白っぽく、後翅は白に近くなる。夏に出るものは強く黒味を帯びる。幼虫の食草としては、カキツバタ、イタドリなどが報告されている。*Viminia* 属はケンモンヤガ類としてはめずらしく、非樹木性で、潅木や草本につくという。国内では北海道、本州、四国、九州、対馬に、国外では台湾、朝鮮半島、中国、ロシア南東部に分布する。

【県内での生息地域・生息環境】

今のところ生息地は三瓶山のみ。湿地環境に生息するとされ、三瓶では池のカキツバタなどとの関係が考えられる。

【存続を脅かす原因】

湿地環境およびそれに付随する植生の消失。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	湿地	森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
	○							○																	

チョウ目ヤガ科

ナマリキリガ

Orthosia satoi Sugi, 1960

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

産地・個体数がきわめて限られる。

【概要】

前翅長17㎜内外。前翅は紫灰色の地色、黒く太いスジを有する。成虫の発生は春４月、年に１度だけである。本種の属する*Orthosia*属は北半球温帯の広葉樹林に多くの種が生息するといわれ、国内には20種ほどが知られている。いずれの種も春にのみ出現、同じような生活サイクルを持っている。本種は日本特産種。東北地方から本州中部にかけて産地があるが、局地的。個体数も少ない。幼虫の食草や生態などに関しても未知の部分が多い。

【県内での生息地域・生息環境】

従来西日本には生息記録が見当たらなかった種であるが、1999年に三瓶山で見つかった。現在までのところ、採集例はこの１例のみ。三瓶山の落葉樹林を生息場所としていると考えられる。

【存続を脅かす原因】

三瓶山等、落葉樹林帯の減少や消滅。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
	○			○																					

チョウ目ヤガ科

ムラサキミツボシキリガ

Eupsilia unipuncta Scriba, 1919

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での生息地が限定される。

【概要】

前翅長18－19㎜。前翅は紫赤色で、外横線付近に灰色の太い帯がある。中室近くの白点は小さく、その周りの小白点は個体によっては消失することがある。成虫の発生は10月ごろ。越冬した個体は春に見られるというが、県内ではまだ観察がない。幼虫期については未知。国内では本州、四国、九州に分布する。しかし生息地はかなり局地的で見つけにくい。国外では中国に分布している。

【県内での生息地域・生息環境】

1990年代終わりに、県中部の三瓶山と西部の中国山地沿いの地域で続けて見つかった。いずれも落葉樹林帯。また川沿いの地域に多く見られるとの観察もある。暖温帯の種とされている。

【存続を脅かす原因】

良好な落葉樹林帯の減少や消滅。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
	○	○		○					○																

チョウ目ヤガ科

ヨスジキリガ

Eupsilia strigifera Butler, 1879

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内での産地・個体数がきわめて限られる。

【概要】

前翅長15㎜内外。翅は黄褐色、前翅にクリーム色にちかいスジが４本入る。全体的に薄い色あいで、淡い印象がする。成虫は10月ごろに出現し、そのまま越冬して３～４月ごろまで活動する。ただ県内で、春の個体は確認されていない。幼虫期は未知。国内では岩手県以南の本州、四国、九州、対馬に分布する。東北地方では以前見つかっておらず、近年進出したと考えられるという。国外では台湾、朝鮮半島、中国、ネパールなどに分布。

【県内での生息地域・生息環境】

現在までのところ生息地は県中部の三瓶山のみ。落葉樹林帯での採集例が１例あるだけである。

【存続を脅かす原因】

より多くの調査が必要だが、落葉樹林等の林の減少、消失が考えられる。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
	○			○					△																

チョウ目ヤガ科

ツクシカラスヨトウ

Callyna contracta Warren, 1913

島根県：準絶滅危惧（NT）
島根県固有評価：－
環境省：－

【選定理由】
本州における生息確認記録が少なく、局地的である。
【概要】
前翅長17㎜内外。明るい茶色を基調とした翅を持つ。前翅はこげ茶と白色の紋で特異な模様を形成する。成虫は５～６月および８～９月に出現する。幼虫はムラサキ科のチシャノキを食べるというが、詳しくは分っていない。国内では九州と奄美大島のみに分布するとされてきた。だが近年、中国地方西部や対馬などで新たな生息地の発見が続いている。国外では中国、ベトナム、ネパール、インドに分布する。
【県内での生息地域・生息環境】
1999年以降、県中西部および中国山地沿いの地域で生息地が見つかってきている。
【存続を脅かす原因】
まだ多くの調査が必要と思われるが、良好な森林環境の減少や消滅が考えられる。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
	○	○		○					○																

チョウ目ヤガ科

コシロシタバ

Catocala actaea Felder & Rogenhofer, 1874

島根県：準絶滅危惧（NT）
島根県固有評価：－
環境省：準絶滅危惧（NT）

【選定理由】
県内での生息地が限定され、さらに減っていく傾向にある。
【概要】
前翅長27㎜内外。ハネの地色が黒い*Catocala*で、後翅に細長い白色の斑紋を有する。成虫は年に一度、６月終わりごろから出現、秋まで姿が見られる。幼虫はクヌギなどブナ科を食樹としている。
北海道、本州、四国、九州に分布しているが、数は少ない。国外では朝鮮半島、中国、ロシア南東部に分布している。
【県内での生息地域・生息環境】
低地の落葉二次林を主たる生息場所とし、県東部および西部の山口県に近い限られた地域にのみ見られると考えられていたが、全県的に、時に市街地の裏山のようなところにも少数ながら見出せることが分ってきた。
【存続を脅かす原因】
クヌギを含む落葉二次林や里山的環境の減少や消滅など。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○	○	○		○					○						○										

チョウ目ヤガ科

クロシモフリアツバ

Atuntsea kogii（Sugi, 1977）

島根県：準絶滅危惧（NT）
島根県固有評価：基準標本産地
環境省：－

【選定理由】
国内ならびに県内における生息地がきわめて限定される。また本県赤名峠産の個体が模式標本となっている。
【概要】
前翅長12－14㎜。前翅は茶色、灰白色、黒などが交じり合った複雑な斑紋を有するが、後翅は茶色で無地である。成虫は県内の例でいうと６～８月にかけて発生。幼虫その他については、今のところ不明である。本種は1977年に北海道産のオスと本県赤名峠産のメスをもとにして新種記載されたもので、１属１種。北海道、本州に分布するが、局地的、個体数も多くない。国外では朝鮮半島に分布する。
【県内での生息地域・生息環境】
県中部の三瓶山および赤名峠で採集されている。三瓶の例を見る限り、雑木林の蛾との印象が強い。
【存続を脅かす原因】
雑木林を含む森林環境の減少、消滅が考えられる。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
	○			○					○																

チョウ目トラガ科

コトラガ

Mimeusemia persimilis Butler, 1878

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内における生息地が限られる。

【概要】

前翅長21－24㎜。前翅は黒の地色に大きな黄色い斑紋を散らす。後翅はオレンジ色、黒の縁どりと紋がある。同じ科のトラガ*Chelonomorpha japana* Motschulsky, 1861と大きさ、色、斑紋等、よく似ている。そのため過去の採集記録においては両者を混同していた可能性がある。成虫は５月の終わりから６月にかけて現れ、昼間に活動する。トラガが４月から５月の初めにかけて出現するのに対して、１カ月近く発生が遅い。幼虫はヤブガラシ、ヤマブドウ、マタタビを食草としている。国内では北海道、本州、四国、九州、対馬に、国外では朝鮮半島、中国、ロシア南東部、ベトナムに分布する。

【県内での生息地域・生息環境】

県中部の三瓶山およびその周辺、琴引山、また西部の中国山地沿いの地域に生息しているが、個体数は少ない。

【存続を脅かす原因】

森林やそれに付随する草地などの環境改変。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
△	○			○					○																

チョウ目アゲハチョウ科

オナガアゲハ

Papilio macilentus Janson, 1877

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

産地・個体数ともに減少している。

【概要】

翅長49－70㎜。黒いアゲハの中では、翅の幅が狭く尾状突起が長い特徴があり識別しやすい。５月、８月の２回発生。低山地から山地の落葉樹の多い谷筋の開けた場所によく現われ、ゆるやかに飛翔し、アザミなどの花で吸蜜したり地上で吸水したりする。もともとアゲハの中では個体数の少ない種である。

【県内での生息地域・生息環境】

県東部の県境付近の低山地でもよく発生していたが、山が伐採され環境が一変し姿を消したところもある。本種の食草は一般にはコクサギとされるが、県内で確認されている食樹はシキミ、カラスザンショウ。松江市八重垣神社周辺は普通に見られていたが、ここ10年ほどは確認できていない。隠岐（島後）では、1980年代から記録がない。

【存続を脅かす原因】

落葉広葉樹林の手入れ不足による荒廃と思われる。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○	○	○	○	○					○						○										

チョウ目シロチョウ科

ツマグロキチョウ

Eurema laeta bethesba（Janson, 1878）

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧ⅠＢ類（EN）

【選定理由】

全国的に減少しており、本県でも産地、個体数とも減少傾向である。

【概要】

翅長18－21㎜。河川敷、堤防、海岸草地や、山間地の林周辺に生息する。食草はマメ科のカワラケツメイ。成虫は年２回発生し、夏型はキタキチョウとよく似ていて、混生地では識別が難しいが、食草から離れることなく周辺の花を訪れたり吸水したりしている。10月ごろに秋型が現われ、前翅の先端が尖り独特の褐色条が現われ識別が容易になる。越冬のため分散が著しく、発生地から離れた場所でも見られるようになる。

【県内での生息地域・生息環境】

旧・仁多町、旧・頓原町、旧・赤来町などの山間地、安来市などに記録が多い。食草カワラケツメイは道路ぎわやガレ場的な荒れ地に群落を作るため、人為的な環境変化、他植物の進入など遷移の進行により、本種発生量は変動が大きい。新しくつくられたキャンプ場周辺や、ダム湖周辺などで多数見られることもある。

また、旧・六日市町では農家が豆茶用としてカワラケツメイを無農薬栽培しており、本種が多数発生していたことがある。

1985年島根半島の海岸線岩場で、大陸からの飛来によるものと思われる裏面が赤い個体群が多数観察されたこともある。

隠岐（島後）では計２例の記録のみで、これも大陸からの飛来によるものと思われる。

【存続を脅かす原因】

カワラケツメイ群落地の荒廃。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○	○		△		○							○						○				○			

チョウ目シジミチョウ科

ゴイシシジミ

Taraka hamada（H. Druce, 1875）

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

県内に広く分布しているが減少傾向。

【概要】

翅長10－16㎜。翅の裏が碁石を並べているような斑紋がある。幼虫は笹や熊笹などに付くアブラムシを食べて育つ肉食性で、成虫はアブラムシが出す分泌物を吸う。発生地周辺で見られるが、時には何の種かわからないほど激しい飛び方をする。春から初秋に見られるので年２～３回の発生と思われる。

【県内での生息地域・生息環境】

平地、低山地から山間地まで、林周辺、山道脇のササ類のある所で発生する。アブラムシに影響され毎年発生するとは限らず、また、今まで見なかった所で突然発生することもあり、アブラムシを求め移動性があるようで、産地は流動的である。隠岐（島後）には確実な採集記録があったが、長く再確認されていない。

【存続を脅かす原因】

開発改修、自然遷移。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○	○	○	○	○					○						○										

チョウ目シジミチョウ科

ウラゴマダラシジミ

Artopoetes pryeyi（Murray, 1873）

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：隔離分布種

環境省：－

【選定理由】

生息地が限られ個体数も少ない。

【概要】

翅長22－24㎜。食樹イボタノキがある平地から低山地の落葉広葉樹が優占する林の林縁部を生息環境としている。年１回６月に発生、オスは日中あまり活発ではなく、イボタやウツギなどで吸蜜する。ミドリシジミ属の中には夕方に活発に飛翔する種がいるが本種もその１種。産卵はイボタの枝に産み付けられるが、赤いUFOのような独特の形をしていてよく目立つ。

【県内での生息地域・生息環境】

浜田市周辺など西部にも生息地はあるが、松江市・出雲市・雲南市・奥出雲町など東部に多く生息地が見られる。各地とも道路拡幅などでイボタを含む雑木林の伐採が進行し生息域が狭められている。

隠岐（島後・西ノ島、中ノ島、知夫里島）産は、翅表の黒帯が広くて暗化する地理的変異が見られ、きわめて特異な個体群であり、保全が必要である。

【存続を脅かす原因】

雑木林の荒廃。隠岐諸島では殺虫剤空中散布。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○	○	○	○						○						○						○				

チョウ目シジミチョウ科

ウラキンシジミ

Coreana stygiana（Butler, 1881）

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：隔離分布種

環境省：－

【選定理由】

生息地・個体数共に減少傾向である。

【概要】

翅長17－19㎜。日本特産種。オスの翅裏は暗い金色、メスは明るい金色をしている。コバノトネリコやマルバアオダモを食樹とし、低山地では６月中旬ごろ、三瓶山のような高標高地では６月下旬から７月上旬ごろ発生。日中はほとんど飛翔することなく、クリの花などで吸蜜し、まれに吸水する姿も見られる。５時ごろより日没直後には活発に活動する。

【県内での生息地域・生息環境】

県東部県境付近の低山地で1997年確認しているが、道路拡張、新設などで環境も悪くなり、現在でも生息しているか不明。呑谷でも1986年の記録がある。船通山、三瓶山、奥出雲町など山地の渓谷沿いや落葉樹林周辺では、現在でも確認されている。隠岐（島後・西ノ島）にも生息しており、特異な個体群であるが、松枯れ対策の殺虫剤空中散布の影響を受けて激減している。

【存続を脅かす原因】

トネリコを含む雑木林の伐採、隠岐諸島では殺虫剤空中散布。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○	○	○	○	○					○																

チョウ目シジミチョウ科

フジミドリシジミ

Sibataniozephyrus fujisanus（Matsumura, 1910）

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

生息地が限られ、個体数も少ない。

【概要】

翅長16－18㎜。日本特産種（近似種が近年、台湾、中国奥地で発見された）。標高600m以上のブナ林に生息。年１回６月に出現するが、樹上で生活しているため発見しにくい。強風の翌朝にブナ林の下草によく降り、気温の高い日には吸水にも降りてくるので、こんなときには発見しやすい。標高の高い地で発生が早いのは、ブナの芽ぶきが早く伸展も早いため、食樹に合わせて幼虫の成長も早いためである。

【県内での生息地域・生息環境】

温帯落葉樹林に自生するブナ林は、県内で10数カ所あるが、現在確認されている確実な産地は船通山、大万木山、天狗石山、匹見峡の４カ所。匹見峡は標高400m付近のイヌブナが食樹になっている特異な環境である。三瓶山のブナ林ではいまのところまだ発見されていない。

【存続を脅かす原因】

ブナ・イヌブナ帯における林道建設、植林のための野放図な伐採。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○	○	○		○																					

チョウ目シジミチョウ科

ウラジロミドリシジミ

Favonius saphirinus（Staudinger, 1887）

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：隔離分布種

環境省：－

【選定理由】

産地も限られ個体数も少ない。

【概要】

翅長17－19㎜。ゼフィルスの中でもファボニウスと言われる、オスの翅表が青緑色に輝く一群の仲間で、裏面が銀白色しているのでこの名がある。年１回６月にナラガシワ林に発生する。同じ食樹であるヒロオビミドリシジミと混生するところも多いが、県東部低山地の小規模なナラガシワ林では本種のみ発生している。

【県内での生息地域・生息環境】

東部、西部にナラガシワ林が点在するが、開発改修、道路拡張、椎茸のホダ木にと伐採されることが多く、また、林周辺に存在する所では、放置されて他の樹木に覆い隠されそうになるほど､樹種変換がゆっくりと進行し、本種の存在が数年後には危ぶまれるほど不安定な環境下にある。また、隠岐（島後）では、海岸近くにある小規模なカシワ林に生息が確認されており、きわめて特異な個体群で特別な保全対策が必要である。

【存続を脅かす原因】

カシワやナラガシワを含む雑木林の伐採。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○	○	○	○						○						○						○				

チョウ目シジミチョウ科

ハヤシミドリシジミ

Favonius ultramarinus（Fixsen, 1887）

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

カシワに依存しているため、産地も限定され個体数も少ない。

【概要】

翅長20－22㎜。オスの翅表が青緑色に輝くファボニウスと呼ばれる一群の仲間で、６月下旬から７月上旬の短い期間に出現。標高400m以上の山地のカシワ林が生息地。日中はカシワの葉陰に潜んでいることが多く、朝方や夕方に活動。特に早朝には下草に降りている個体をよく見かけることもある。産卵は大木では下枝の１年枝上に、ヒコバエには好んで産卵し、林から離れた草地に孤立している若木にも多数の卵が見られることもある。

【県内での生息地域・生息環境】

県内で確認されているのは三瓶山、大佐山、吾妻山の３カ所。三瓶山では山頂部や室の内は特別保護区として保全され良好であるが、個体数は多くない。他所は道路ができたり、近くにスキー場ができたりで、荒廃している。

【存続を脅かす原因】

カシワ林周辺の開発。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
	○	○		○																					

チョウ目シジミチョウ科

エゾミドリシジミ

Favonius jezoensis（Matsumura, 1915）

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：隔離分布種

環境省：－

【選定理由】

局地的で、生息地も限定される。

【概要】

翅長18－21㎜。食樹ミズナラが、中国地方では標高600m以上の山地に限られるため、発生地も限定されている。６月下旬から７月上旬ごろに出現するが、同じ食樹のジョウザンミドリシジミ、アイノミドリシジミと混成している場所も多く、時間的な棲み分けをしている。早朝にも見られることもあるが、午後からの活動がおもになり、晴天時には午後から夕方にかけ、なわばりをつくり、活発に飛翔する。曇天時は活動時間が早くなる傾向がある。産卵は太枝、樹幹などに行う。

【県内での生息地域・生息環境】

県内では船通山、大万木山、三瓶山、益田市匹見町、隠岐（島後）などに記録がある。隠岐（島後）の山地ミズナラ林に生息する本種はきわめて特異な地域個体群であり、特別な保全対策が必要である（久保田直哉氏が発見）。

【存続を脅かす原因】

林道開発などによるミズナラを含む落葉広葉樹林の伐採。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○	○	○	○	○																					

チョウ目シジミチョウ科

クロミドリシジミ

Favonius yuasai Shirôzu, 1947

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

産地が局限され、個体数も少ない。

【概要】

翅長19－21㎜。翅の表が黒褐色で緑色をしないミドリシジミ。クヌギ、アベマキの大木がある林に発生するが、自然林より人家周辺の二次林を好むようで、しかも若木のみの林では見られず、ある程度の古木が存在する林に発生し、また、特定の木に偏って見られる傾向がある。活動は夜明け前の暗いうちに始まり、明るくなるころには活動が終わっている。昼間は樹葉上にいることが多いが、夕方には再び活動を始める。終令幼虫は、一般には樹の根際に降りてくる習性が知られているが、本県では高所にとどまるという特徴がある。

【県内での生息地域・生息環境】

西部（旧・六日市町）で1968年初発見（能見豪氏）。以後、旧・柿木村、旧・津和野町などで確認されており、東部でも三瓶山、旧・赤来町、旧・頓原町などから発見された。大木を含むクヌギ林は県内にはごく少なく、発生数も少ない。

【存続を脅かす原因】

クヌギの古木を含む自然度の高い雑木林の荒廃。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○	○	○		○																					

チョウ目シジミチョウ科

ヒサマツミドリシジミ

Chrysozephyrus hisamatsusanus（Nagami et Ishiga, 1935）

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

生息地が限定され個体数も減少傾向。

【概要】

翅長18㎜前後。日本特産種。ミドリシジミの中で後翅の白帯がＶ字状になっているのは本種のみ。食樹ウラジロガシのある渓谷沿いで６月中旬ごろより発生する。オスは山頂付近で多く見られ、晴天の日中にかけ活動する。メスは活発に活動することはないが、10月ごろまで生存し、ウラジロガシの頂芽辺りの休眠芽に産卵する。鳥取市の久松山が基準標本産地で、和名は訓読みしたもの。

【県内での生息地域・生息環境】

匹見峡、旧・仁多町に産地が知られていたが、近年、調査精度が上がり、旧・金城町、旧・旭町、旧・瑞穂町、大万木山、安来市からも卵、成虫確認の報告がある。旧・仁多町では、落葉樹と常緑樹が混成している渓谷で、道路付近に産卵木が見られる。現在、伐採や遷移が進み生息環境が著しく悪化している。

【存続を脅かす原因】

ウラジロガシの混じる自然度の高い広葉樹林帯の伐採。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○	○	○		○																					

チョウ目シジミチョウ科

キリシマミドリシジミ

Thermozephyrus ataxus（Westwood, 1851）

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：隔離分布種

環境省：－

【選定理由】

生息地も限定され個体数も少ない。

【概要】

翅長20－21㎜。山地帯でアカガシが多く見られる照葉樹林に７月下旬から８月に発生する。メスの翅裏地色は茶褐色、樹林内の葉上で静止していることが多く、活発に活動することないが、気温が高いときには、地上で吸水もする。オスの翅裏地色は銀白色、表には綺麗に輝く金緑色があり、午前11時ごろより３時過ぎまで、渓谷の斜面や樹林内でもテリトリーを張り活発に活動、交尾もこの時間帯に行われる。

【県内での生息地域・生息環境】

隠岐諸島では1975年に発見され、1981年に淀江賢一郎氏が津和野町で発見した。隠岐（島後）では、ルーミスシジミと混生しているが、大規模伐採や杉の植林で大きなアカガシ林が減少傾向にあり、さらに1990年代の大型林道造成工事が拍車をかけ憂慮すべき状態になっている。

【存続を脅かす原因】

林道建設、植林などによるアカガシ林の伐採。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
		○	◎	◎																					

チョウ目シジミチョウ科

スギタニルリシジミ

Celastrina sugitanii Matsumura, 1919

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

生息地が限定され、個体数も少ない。

【概要】

翅長12－15㎜。北海道、本州、四国、九州に分布。年１回、４月中旬ごろに出現。トチノキの見られる山間樹林の渓谷で発生、よく晴れた暖かい日に活動し、オスはよく地上や渓流の岩場で吸水、時には集団にもなる。メスは近くのワサビなど訪花する。ルリシジミと混生するため紛らわしいが、本種は翅の色が灰白色で暗く、また斑紋の構成で識別できる。孵化した幼虫はトチノキの花、つぼみを食して成長する。県内ではミズキなどでは確認されてない。

【県内での生息地域・生息環境】

県内では匹見峡、船通山など局地的に生息しているが、近年、三瓶山、奥出雲町呑谷からも記録がある。船通山は渓谷沿いが急斜面になり、山頂部のカタクリも保護されているため、開発しにくい状況にあり環境は良い。

【存続を脅かす原因】

トチノキの混じる自然度の高い落葉広葉樹林の大規模な伐採。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○	○	○		○																					

チョウ目タテハチョウ科

ホシミスジ隠岐亜種

Neptis pryeri yodoei Fujioka, 1998

島根県：準絶滅危惧（NT）　写真 口絵22

島根県固有評価：島根県固有亜種、基準標本産地

環境省：－

【選定理由】

本種は隠岐諸島のみに生息する個体群で、近年減少傾向である。

【概要】

翅長26－32㎜。海岸部でミツバイワガサが見られる林縁の明るい場所に年１回６月に出現（例外的に２化）、ゆるやかに飛翔しウツギなどに訪花する。８月には食草の一部を綴って巣を作り越冬する。前翅２室の白斑が横に大きく、後翅白斑列が三日月形になるなど顕著な地理的変異が見られ、隠岐諸島の個体群は固有の亜種（ssp. *yodoei*）として1998年に記載された。

【県内での生息地域・生息環境】

隠岐（島後、西ノ島、中ノ島、知夫里島）ではおもに海岸部の崖や河川下流域の崖地、道路沿いの崖地が生息地になっている。食樹ミツバイワガサが西日のよくあたる崖地に生育しているため、本種も山奥よりも海岸近くに多く見られる。本亜種は特異な地域個体群であり保全が必要である。

【存続を脅かす原因】

道路開発（道路拡幅や古い露岩地のコンクリート吹き付けなど）。殺虫剤空中散布。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼	崖地	森林	草原	農地	河川	湖沼	崖地	林地	草地	砂浜	河口	崖地
			○											○						○					○

チョウ目タテハチョウ科

アサマイチモンジ

Limenitis glorifica Fruhstorfer, 1909

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

近年産地、個体数が減少傾向にある。

【概要】

翅長25－36㎜。日本固有種で本州のみに生息。スイカズラやタニウツギなどを食草に、年２回５～６月と８月に発生し樹林周辺で見かける。良く似たイチモンジチョウと混生している場所もあるが、白斑の違いなどで識別できる。発生場所にある花を訪れたり、吸水したりする。幼虫で越冬する。

【県内での生息地域・生息環境】

低山地から山地にかけて生息しているが、良好だった産地も放置されてクズなどが辺りを覆い、衰亡している所が多い。県東部の観察では、遷移による環境の悪化のせいか、よく見られた三瓶山や旧・仁多町も、一時まったく見られなくなった年もあったが、近年少ないながら復活した。隠岐諸島からは未記録である。

【存続を脅かす原因】

開発や、遷移の進行、林縁の手入れ不足による荒廃など。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○	○	○							○	○					○										

チョウ目セセリチョウ科

オオチャバネセセリ

Polytremis pellucida（Murray, 1875）

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

1990年代より県内全域で減少傾向が見られる。普通種と思われていたが、全国的にも減少傾向にあるという。

【概要】

翅長22－23㎜。翅裏面の白斑がジグザグに並ぶ所で近似種と識別できる。飛翔は敏速で、ノアザミ、オカトラノオなどの花を訪れ、ときには吸水もする。年２回の発生で、ササ原や雑木林周辺の林縁草地がおもな生息地になるが、河川敷でも見られる。

【県内での生息地域・生息環境】

平地から山地まで、林縁のイネ科植物の生える草地やササ草原に広く生息するが、密度は低い。近年、多産していた東部でも著しく減少している。しかし、普通種と思われていたために昔の記録が乏しく、定量的な比較が困難であり、今後のデータ集積が必要である。

【存続を脅かす原因】

雑木林周辺（林縁）の荒廃によるものと思われる。

生息地域				山地地域					里地地域						平野地域						海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		森林	草原	農地	河川	湖沼		林地	草地	砂浜	河口	
○	○	○			○				○	○	○				○	○	○								